J

デジタルサウンドプロジェクター

YSP-600

取扱説明書

ヤマハデジタルサウンドプロジェクターYSP-600をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

●本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

●保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

リモコン機能ガイド

TV/AV/YSPスイッチ:TV/AVモード時

ヒント

外部機器を操作するには、リモコンコードを登録する必要があります(81ページ)。

放送メディア切り替えキー
デジタル放送対応のテレビ/DVDレコーダーで受信する放送メディア(BS放送/CS放送/地上デジタル放送/地上アナログ放送)を切り替えます。

数字キー
数字を入力します。

EPGキー
デジタル放送対応のテレビ/DVDレコーダーでデジタル放送を受信しているときに、電子番組表(EPG)を表示します。

メニューキー
メニューを表示、終了するときに使用します。

カーソル(△/▽/◁/▷)キー/決定キー
メニューを選択・決定するときなどに使用します。

録画番組キー
デジタル放送対応のDVDレコーダーに録画したデジタル放送番組を表示します。

音量(+/−)キー
YSP-600の音量を調節します(46ページ)。

消音キー
YSP-600を消音します(46ページ)。

外部機器操作キー
再生、停止など、外部機器の基本的な操作に使用します(84ページ)。

ディスク切り替えキー
HDD付きDVDレコーダーのディスクを切り替えます。

電源(⏻/I)キー
YSP-600の電源のスタンバイ／オンを切り替えます(31ページ)。
電源(AV)キー
選択した機器の電源のスタンバイ／オンを切り替えます(84ページ)。
電源(TV)キー
テレビの電源のスタンバイ／オンを切り替えます(83ページ)。
入力選択キー
再生する機器を選択します(43ページ)。
テレビ入力1／2キー
テレビの入力1／2を選択します(83ページ)。
テレビマクロキー
テレビマクロを設定します(86ページ)。
TV/AV／YSPスイッチ
リモコンの操作モードを切り替えます。
戻るキー
前のメニューに戻るときに使用します。
チャンネル(+/−)キー
テレビやビデオのチャンネルを切り替えます(83ページ)。
テレビ音量(+/−)キー
テレビのボリュームを調節します(83ページ)。
テレビ入力切替キー
テレビの入力を切り替えます(83ページ)。
テレビ消音キー/コードセットキー
テレビを消音します(83ページ)。
リモコンコードを登録する(81ページ)ときや、テレビマクロ機能を使う(86ページ)ときに使用します。
電 源
TV
AUX
マクロ
TV/AV
YSP
戻る
DVD

リモコン機能ガイド

TV/AV/YSPスイッチ：YSPモード時

赤外線送信部
リモコン操作時に、本リモコンが赤外線信号を送信します（30ページ）。

電源（⏻/I）キー
YSP-600の電源のスタンバイ／オンを切り替えます（31ページ）。

電源（AV）キー
選択した機器の電源のスタンバイ／オンを切り替えます（84ページ）。

音量モードキー
音量を抑えてサラウンド再生を楽しむときに使用します（56ページ）。

自動設定キー
自動設定（ビーム調整＋音質調整）するときに使用します（36ページ）。

デコーダーキー
サラウンドモードを選択します（51ページ）。

CHレベルキー
各チャンネルの音量を調節します（75ページ）。

カーソル（△/▽/◁/▷）キー/決定キー
メニューを選択するときなどに使用します。

メニュー画面上では、▲/▼/◀/▶がカーソル（△/▽/◁/▷）キーを表しています。

テストキー
テスト音を出力します（74ページ）。

チャンネル（＋/－）キー
テレビやビデオのチャンネルを切り替えます（83ページ）。

音量（＋/－）キー
YSP-600の音量を調節します（46ページ）。

消音キー
YSP-600を消音します（46ページ）。

外部機器操作キー
再生、停止など、外部機器の基本的な操作に使用します（84ページ）。

リモコン送信表示
リモコン操作用の赤外線信号を送信しているときに点灯します。

マイビーム用マイク
マイビームの自動角度調節でテスト音を測定するときに使用しています（54ページ）。

電源(TV)キー
テレビの電源のスタンバイ／オンを切り替えます（83ページ）。

入力選択キー
再生する機器を選択します（43ページ）。

テレビ入力1／2キー
テレビの入力1／2を選択します（83ページ）。

テレビマクロキー
テレビマクロを設定します（86ページ）。

入力モードキー
本機に入力される音声信号を選択します（76ページ）。

スリープキー
スリープタイマーを設定します（57ページ）。

ビームモードキー
ビームモードの設定を変更します（47〜49、53、54ページ）。

TV/AV／YSPスイッチ
リモコンの操作モードを切り替えます。

D音声多重キー
デジタル音声多重の設定を切り替えます（58ページ）。

戻るキー
前のメニューに戻るときに使用します。

メニューキー
テレビ画面にメニューを表示、終了するときに使用します（61ページ）。

テレビ音量(＋/－)キー
テレビのボリュームを調節します（83ページ）。

テレビ入力切替キー
テレビの入力を切り替えます（83ページ）。

テレビ消音キー/コードセットキー
テレビを消音します（83ページ）。
リモコンコードを登録する（81ページ）ときや、テレビマクロ機能を使う（86ページ）ときに使用します。

もくじ

本機について

はじめに 8
- 本機の特長 9
- 本書の記載について 10
- 効果的なサラウンドのために 10
- 付属品を確認する 11

サラウンドサウンドを楽しむまでの流れ 12

各部の名称とはたらき 13
- 前面（フロントパネル） 13
- フロントパネルディスプレイ 14
- 背面（リアパネル） 15

設置・接続する

設置する 16
- 本機を仮置きする 16
- 本機をリスニングルームに設置する 16

接続する 19
- 接続の基礎知識 20
- HDMI端子を使って接続する 22
- 音声と映像を別々に接続する場合（TV内蔵チューナーを使用） 24
- 音声と映像を別々に接続する場合（CATVなど外部チューナーを利用する場合） 26
- 電源コードを接続する 28

準備する

リモコンの準備をする 29
- リモコンに電池を入れる 29
- リモコンの操作範囲 30

設定・操作の準備をする 31
- 電源をオン／スタンバイにする 31
- テレビ画面にメニューを表示する ... 32

設定する

設定の流れ 33

本機を自動設定する（インテリビーム） 34
- インテリビームマイクを設置する ... 34
- 自動的に測定･設定する 36

メモリー機能を使用する 40
- メモリーの便利な使い方 40
- 設定結果をメモリーに保存する 40
- 保存したメモリーを呼び出す 42

基本操作

入力音声を再生する 43
- 再生したい機器を切り替える 43
- テレビやDVDを楽しむ 44
- デジタル音声信号の入力を確認する 45

音量を調節する 46
- 消音する 46

サラウンド再生を楽しむ 47
- 5ビームで再生する 47
- ST＋3ビームで再生する 48
- 3ビームで再生する 48
- マイサラウンドで再生する 49
- 内蔵デコーダーとインジケーター表示 50
- 2チャンネルソースをサラウンドで楽しむ 51

ステレオ再生を楽しむ 53

音声を明瞭に再生する（マイビーム） 54
- 手動でビーム角度を調節する 55
- 自動的にビーム角度を調節する 55

音量を抑えて再生する（ナイトリスニングモード･テレビ音量一定モード） 56

スリープタイマーを使用する 57
デジタル音声多重を切り替える 58
HDMIコントロール機能を使う 59

応用操作

本機を詳細に設定する 60
詳細設定メニュー一覧 60
詳細設定メニューの操作手順 61
ビームを設定する 63
設置環境の設定により、ビームを調節する（設置視聴環境） 63
ビームの水平角度・経路長・焦点距離・高音レベルを個別に設定する（ビーム調整） 64
フロント左／右チャンネルのバランスを調節する（Lch/Rch位置調整） 66
音声出力を設定する 67
高音域と低音域の出力レベルを設定する（トーンコントロール） 67
サブウーファーの設定をする 67
消音のレベルを設定する 68
映像と音声のタイミングを調節する 68
ダイナミックレンジ圧縮を設定する 69
TruBassを設定する 69
入力の設定を変更する 70
電源をオンにしたときに適用する入力モードを設定する（入力信号デコードモード） 70
各端子の入力レベルを調節する（入力レベル調整） 70
HDMI信号に関する設定をする（HDMI設定） 70
表示の設定を変更する 73
フロントパネルディスプレイ表示を設定する（本体表示設定） 73
メニューの表示を設定する（メニュー画面設定） 73
音のバランスを調節する 74
テスト音を使って調節する 74
再生しながら調節する 75
入力する音声信号を切り替える（入力モード切り替え） 76
拡張メニューを設定する 78
拡張メニューの操作手順 78
メニューの設定内容を保護する 79
音量の最大値を設定する 79
電源を入れたときの音量を固定する 79
デモモードで再生する 79
フロントパネルのINPUTキー操作を無効にする 79
フロントパネルキー操作を無効にする 80
設定した内容を初期化する 80
本機のリモコンで外部機器を操作する 81
リモコンコードを登録する 81
設定した機器を操作する 83
テレビマクロ機能を使用する 86
リモコンコード一覧 88

付録

故障かな？と思ったら 89
全般 89
リモコン 92
技術／用語解説 93
主な仕様 95
索引 96
ヤマハホットラインサービスネットワーク .... 巻末

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。
お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

⚠ **警告** この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

⚠ **注意** この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源/電源コード

必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なにおいや音がする。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

必ずAC100V（50/60Hz）の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機のSTANDBY/ONスイッチでスタンバイ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。本機を完全に主電源から切り離すためには、電源コードをコンセントから抜いてください。

電池

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。

禁止

放熱のため本機を設置する際には：

- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
- 仰向けや横倒しには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意

禁止

放熱用の通風孔から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ

必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源/電源コード

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池

必ず実行

電池は極性表示(プラス＋とマイナス－)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

移動

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

再生を始める前には、デジタルサウンドプロジェクターの音量（ボリューム）を最小にする。

突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

業務用機器とは接続しない。

デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

手入れ

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。

感電の原因になります。

薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

機器を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届く状態でご使用ください。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

IntelliBeam

「インテリビーム」「IntelliBeam」は、ヤマハ株式会社の商標です。

DOLBY DIGITAL PRO LOGIC II

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

dts Digital Surround | Neo:6

DTSおよびNeo:6はDTS社の登録商標です。

SRS TruBass

TruBass、SRSと記号はSRS Lab, Inc.の商標です。TruBass技術はSRS Labs, Inc.からのライセンスに基づき製品化されています。

AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/857,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

世界に広く特許申請中の 1Ltd からライセンスを受けています。

‘ ’ は 1Ltd の商標です。

EUPHONY

EUPHONY（ユーフォニー）はダイマジック社の商標です。

HDMI

HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing, LLCの商標または登録商標です。

はじめに

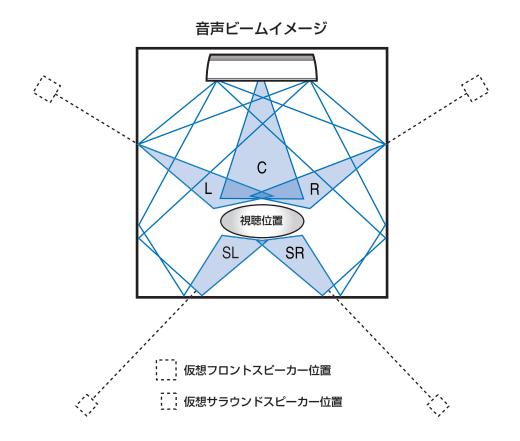
映画館にいるようなサラウンド空間を実現するためには、いくつものスピーカーをそろえ、リスニングルームのあちこちに設置するのが従来のマルチチャンネルサラウンドシステムの常識と考えられてきました。その常識を打ち破り、煩雑なスピーカーの設置や配線といったネガティブな要素を取りのぞいたのがヤマハデジタルサウンドプロジェクター「YSP-600」です。

YSP-600は、内蔵した2個のウーファーと16個の小口径スピーカーをアレー(格子)状に配置することにより、スリムなデザインと大迫力のサラウンドサウンドを実現しています。

ひとつひとつの小口径スピーカーから出力される音声の遅延時間を微妙にコントロールすることによって、小口径スピーカー全体でチャンネルごとに指向性の高い音声を作り出します(音声のビーム化)。ビーム化された音声の指向性(ビームの角度)は、遅延時間を変えることによって調節しています。

フロント右(R)、フロント左(L)、サラウンド右(SR)、サラウンド左(SL)のそれぞれのチャンネル音声に対して音声のビーム化を行い、投射されたビームはリスニングルームの壁に反射して視聴位置に向かいます。そして、ビーム化されたセンターチャンネル(C)の音声を加え、5.1チャンネルのリアルサラウンドを創造します。

これにより、まるでリスニングルームにいくつものスピーカーを配置したかのようなサラウンド空間を実現します。

YSP-600の機能をフルに活用し、部屋いっぱいに広がるリアルサラウンドの醍醐味を存分にお楽しみください。

本機の特長

デジタルサウンドプロジェクター機能搭載

⇒8ページ

音に指向性を持たせる(ビーム化する)ことにより、本機1台でサラウンド再生を実現します。
以下のビームモードでサラウンド再生が可能です。
● 5ビーム　● ST+3ビーム　● 3ビーム
上記以外に、ステレオ再生機能およびマイビーム機能を搭載しています。

マイサラウンド機能搭載

⇒49ページ

リスニングポジションが本機から近かったり、リスニングルームが狭いなど、ビームによるサラウンド効果が得られない環境でもサラウンド感を演出します。
「マイサラウンド」は、株式会社ダイマジックのEUPHONY技術とヤマハ株式会社のビーム再生方式とを融合し、最適化した新機能です。

マイビーム機能搭載

⇒54ページ

ビーム化した音声を視聴者に直接向けることにより、周囲が騒がしいときにもテレビなどの音をはっきりと聞き取ることができます。リモコンのキーを押すだけで、自動的にビームの角度を調節します。

自動設定機能(インテリビーム)搭載

⇒34ページ

サラウンド環境の設定を、付属のインテリビームマイク(高性能測定用マイク)を使用して自動で行うことができます。ビームの向き・音質を設定し、お使いになるお部屋に合わせて最適な視聴空間をつくり出します。

HDMI搭載

⇒22ページ

HDMI端子を、入力2つ、出力1つの合計3つ装備し、HDMIケーブルを使ってDVDプレーヤーなどと簡単に接続することができます。また、HDMIコントロール機能に対応しているテレビと組み合わせれば、テレビのリモコンで本機を操作できます。

多彩な音響技術に対応

⇒50ページ

以下の信号方式に対応したデコーダーを搭載しています。

- ドルビーデジタル
  DVDやブルーレイディスク、HD DVDが標準採用している音声フォーマットです。
- DTS
  DVDやブルーレイディスク、HD DVDが採用している音声フォーマットです。
- AAC(アドバンスト・オーディオ・コーディング)
  BSデジタル放送や地上デジタル放送が採用している音声フォーマットです。通常の2チャンネルステレオ音声に加え、5.1チャンネルのサラウンド音声や多言語の放送を可能にしています。

上記に加え、2チャンネルソースを5.1チャンネルに拡張して再生するドルビープロロジック、ドルビープロロジックII、DTS Neo : 6を搭載しています。

コード設定機能付リモコン

⇒81ページ

リモコンコードを設定することにより、付属のリモコンでテレビ、DVD(ブルーレイ、HD DVD)プレーヤー／レコーダー、BSデジタル／ケーブルテレビチューナー、ビデオデッキを操作できます。地上デジタル放送対応のテレビやHDD／DVDレコーダーのリモコンコードも設定することができます。

本書の記載について

・本書はYSP-600の設置・接続および操作方法について説明しています。他の外部機器の操作方法については、各機器に付属している取扱説明書をご参照ください。

・本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。

・ご注意 では操作・設定を行う際に留意すべき事項、ヒント では知っておくと便利な補足情報を記載しています。

・本書は製品の生産に先がけて印刷されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合があります。また、仕様は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。

効果的なサラウンドのために

本機はビームを壁に反射させてサラウンドを実現するという特性上、以下のような環境では十分なサラウンド効果が得られなかったり、まったく得られない場合があります。

・ビーム経路上に壁がない部屋

・壁の材質が吸音素材でできている部屋

・部屋の大きさが幅3m〜7m、奥行き3m〜7m、高さ2m〜3.5mにあてはまらない部屋

・本機から視聴位置までの距離が1.8m未満の場合

・ビーム経路上に出っ張った家具などの障害物がある部屋

・壁に近いところに視聴位置がある場合

・視聴位置が本機の正面にない場合

ヒント

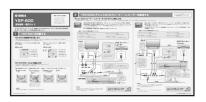
・「マイサラウンド」(49ページ)を選択しているときは、上記の環境でもサラウンドをお楽しみいただけます(視聴位置が本機の正面にない場合を除く)。

・「ステレオ」(53ページ)および「マイビーム」(54ページ)を選択しているときは、上記の環境に関係なくお楽しみいただけます。

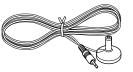
付属品を確認する

同梱されている付属品がすべてそろっていることをご確認ください。

リモコン: 1個
（巻頭）

簡易接続・操作ガイド: 1枚

サラウンド確認用DVD
（説明書付）: 1枚

単3乾電池: 2本
（29ページ）

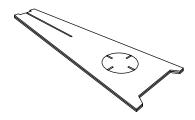
インテリビームマイク:
1個／6m（34ページ）

光ファイバーケーブル:
2本／1.5m（20ページ）

ビデオ用ピンケーブル（メニュー表示用）:
1本／1.5m（20ページ）

（黄）

ステレオピンケーブル:
1本／1.5m（20ページ）

（白/赤）

簡易マイクスタンド:
2枚1セット（35ページ）

ヒント

・付属のケーブルは、接続状況により余る場合があります。
・音声用の付属ケーブル（ステレオピンケーブル・光ファイバーケーブル）のうち、ステレオピンケーブルはアナログ音声信号を、光ファイバーケーブルはデジタル音声信号を伝送します。

サラウンドサウンドを楽しむまでの流れ

ヒント

設置状況により、「1」と「2」は順番を入れ替えたほうがよい場合もあります。

1 本機をリスニングルームに設置します。

「設置する」（16ページ）

2 本機をテレビやその他の外部機器と接続します。

「接続する」（19ページ）

3 リモコンや設定・操作の準備をします。

「リモコンの準備をする」（29ページ）

4 自動設定（インテリビーム）で、本機を使うための設定をします。

「本機を自動設定する（インテリビーム）」（34ページ）

5 音声を再生し、デジタル信号が本機に入力されていることを確認します。

「入力音声を再生する」（43ページ）

6 ビームモードの設定を変更します。

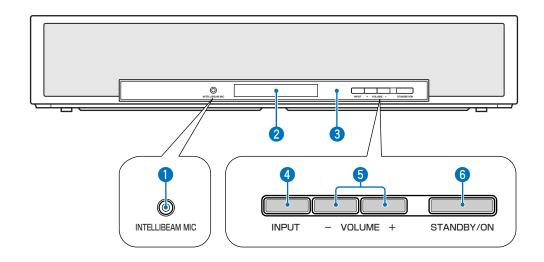
「サラウンド再生を楽しむ」（47ページ）

もっと本機でいろいろなことがしたい！という方は

7 詳細設定やリモコンコード設定などを行います。

「本機を詳細に設定する」（60ページ）、「本機のリモコンで外部機器を操作する」（81ページ）

各部の名称とはたらき

前面(フロントパネル)

❶ INTELLIBEAM MIC端子

付属のインテリビームマイクを接続します(34ページ)。

❷ フロントパネルディスプレイ

再生の状態や設定値などを表示します(14ページ)。

❸ リモコン受光窓

リモコンの赤外線信号を受信します(30ページ)。

❹ INPUTキー

再生する機器を選択します。

❺ VOLUME＋/−キー

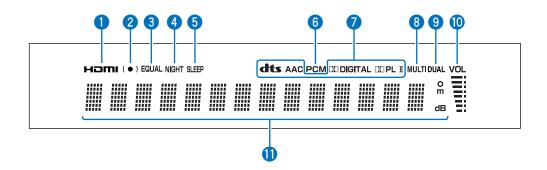
音量を調節します(46ページ)。

❻ STANDBY/ONキー

電源のスタンバイ／オンを切り替えます(31ページ)。電源をオンにしてからも数秒間は音が出ません。

ご注意

スタンバイになっている間も、HDMI信号を検知したり、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量の電力を消費しています。

フロントパネルディスプレイ

❶ HDMIインジケーター

HDMI信号を入力しているときに点灯します。

❷ SRS TruBass（トゥルーベース）インジケーター

SRS TruBassをオンにして、低音域を効果的に再生しているときに点灯します（69ページ）。

❸ EQUAL（イコール）インジケーター

テレビ音量一定モードで再生しているときに点灯します（56ページ）。

❹ NIGHT（ナイト）インジケーター

ナイトリスニングモードで再生しているときに点灯します（56ページ）。

❺ SLEEP（スリープ）インジケーター

スリープタイマーを設定しているときに点灯します（57ページ）。

❻ PCMインジケーター

PCM信号を再生しているときに点灯します。

❼ デコーダーインジケーター

本機に内蔵されているデコーダーが作動しているときにそれぞれのインジケーターが点灯します（50ページ）。

❽ MULTI（マルチ）インジケーター

マルチチャンネルデジタル音声信号を入力しているときに点灯します。（45ページ）。

❾ DUAL（デュアル）インジケーター

BS／CS／地上デジタルの音声多重放送が入力されているときに点灯します（50ページ）。

❿ VOLUME（ボリューム）インジケーター

現在の音量を表示します（46ページ）。

⓫ マルチインフォメーションディスプレイ

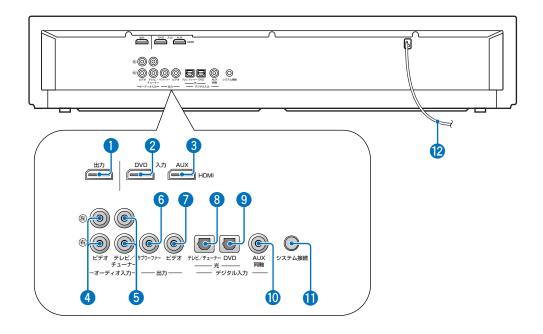
設定値などの情報をアルファベットや数字で表示します。

ご注意

リモコンキー操作時、「Prohibit」と表示された場合、現在の状態では、該当キーの操作が適用できないことを表しています。

ヒント

「フロントパネルディスプレイ表示を設定する（本体表示設定）」（73ページ）で、フロントパネルディスプレイの明るさや文字の表示設定を変更することができます。

背面(リアパネル)

❶ HDMI出力端子

テレビや他の外部機器とHDMI接続します(22ページ)。

❷ HDMI入力(DVD)端子

DVDとHDMI接続します(22ページ)。

❸ HDMI入力(AUX)端子

チューナーやゲーム機などとHDMI接続します(22ページ)。

❹ オーディオ入力(ビデオ)端子

ビデオデッキとアナログ接続します(24ページ)。

❺ オーディオ入力(テレビ／チューナー)端子

テレビ／チューナーとアナログ接続します(24、26ページ)。

❻ 出力(サブウーファー)端子

サブウーファーと接続します(22、24、26ページ)。

❼ 出力(ビデオ)端子

本機のメニューを表示させるため、テレビの映像入力端子と接続します(22、24、26ページ)。

❽ 光デジタル入力(テレビ／チューナー)端子

テレビ／チューナーと光デジタル接続します(22、24、26ページ)。

❾ 光デジタル入力(DVD)端子

DVDと光デジタル接続します(24、26ページ)。

❿ 同軸デジタル入力(AUX)端子

外部機器と同軸デジタル接続します(24、26ページ)。

⓫ システム接続端子

システム接続端子があるヤマハ製のサブウーファーとシステム接続をするときに使用します(22、24、26ページ)。

⓬ 電源コード

ACコンセントに接続します(28ページ)。

設置する

ここでは本機の設置方法について説明します。下記の「設置上のご注意」を参照のうえ、安全な場所に正しく設置してください。なお、ビーム経路上に家具などの障害物があると適切なサラウンド効果が得られない場合がありますので、ビームの経路を考慮した上で設置位置を決定してください。

設置上のご注意

本機の設置には、十分な放熱スペースが必要です。本機の上部に5cm以上スペースが開くように設置してください。上部にスペースがないラックの場合は、熱がこもらないよう後部に十分な通気スペースを確保してください。ヤマハ推奨のラックは安全性を確認済みですので、安心してご使用いただけます。

本機は8.5kgの重さがあります。地震などの振動やお子様の接触などで本機が落下しないように設置してください。

ブラウン管式テレビなど、発熱体の上へは直接設置しないでください。

本機は、防磁型設計となっておりますが、万一テレビに色ムラなどが生じるときは、テレビと本機の距離を離してご使用ください。

車や船舶などには設置しないでください。故障の原因になります。

本機を仮置きする

設置状況によっては、テレビやDVDプレーヤーなどの外部機器を接続してから本機を設置したほうがよい場合もあります。一度仮置きをして設置状況をご確認のうえ、設置と接続(19ページ～)のどちらから行うか決定することをおすすめします。「接続の際は」(20ページ)も合わせてご参照ください。

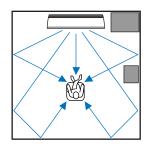
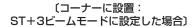
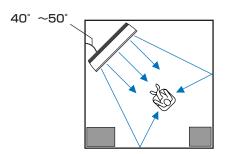
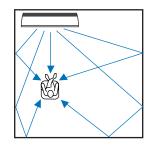
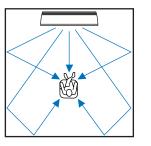
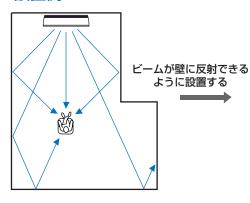
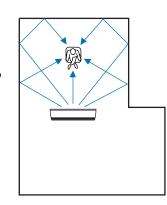
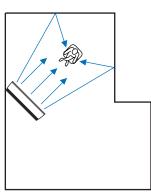
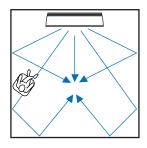
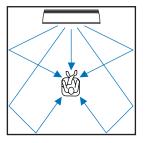
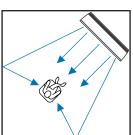
本機をリスニングルームに設置する

十分なサラウンド効果を得るために、右ページの図のように家具などの障害物がビーム経路と重ならない場所に設置してください。

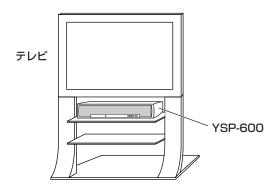
本機を壁と平行に設置する場合には、できるだけ左右の壁の中央に設置し、本機が左右の壁に近づきすぎないようにしてください。

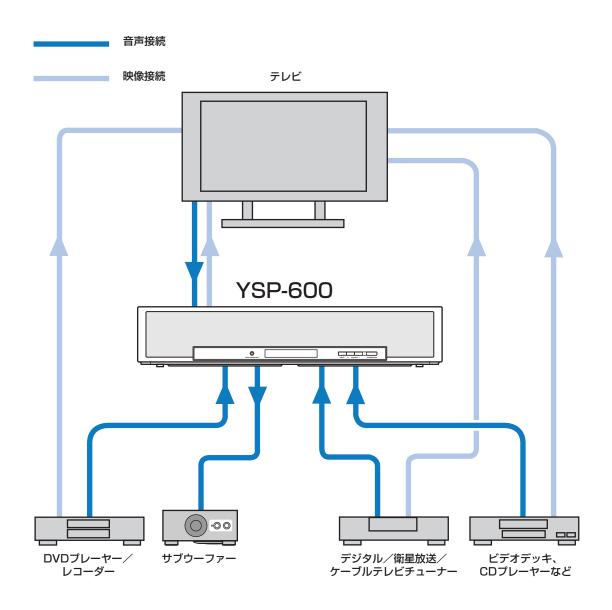
本機を部屋のコーナーに設置する場合には、本機と、隣接する壁との角度が40°～50°の間におさまるように設置してください。

家具などの障害物

〔壁と平行に設置：
5ビームモードに設定した場合〕

設置例1

できるだけ左右の壁の
中央に設置する

設置例2

設置例3

できるだけ視聴位置の
正面に設置する

ラックへの設置例

市販のラックを使用して、本機を設置します。

ラックは本機を設置するのに十分なサイズと放熱スペース、本機とテレビを設置するのに十分な強度を持ったものをお買い求めください。

接続する

本機は光デジタル端子を2系統、同軸デジタル端子を1系統、アナログ端子を2系統装備しています。さらに、音声と映像を同時に伝送できるHDMI端子を入力用で2系統、出力用で１系統装備しています。それらを利用してテレビやDVDプレーヤー、デジタルチューナー、ビデオデッキやゲーム機などを接続してください。また、サブウーファーを本機に接続すると、よりダイナミックな低音を楽しむことができます。本機とそれぞれの機器の詳しい接続方法については22ページ～28ページをご参照ください。

本図は、HDMIを使わずに接続した場合の信号の流れです。
この場合の接続方法は24ページ以降をご参照ください。

接続の基礎知識

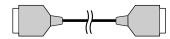
接続の際は

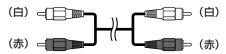
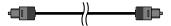
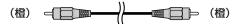
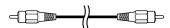
本機を一度仮置きしてみて(16ページ)、設置してからでは接続できなかったり、やりにくい場合は、接続してから設置してください。また、接続する機器に付属の取扱説明書もあわせてご参照ください。

接続ケーブルについて

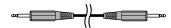
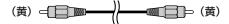
本機と外部機器との接続では、以下のケーブルを使用します。

音声・映像

A HDMIケーブル(別売)

音声

1 ステレオピンケーブル(1本付属)

2 光ファイバーケーブル(2本付属)

3 デジタル音声ピンケーブル(別売)

4 サブウーファー用ピンケーブル(別売)

〈システム接続端子があるヤマハ製サブウーファーの場合〉

5 システム接続ケーブル(サブウーファーに付属)

映像

1 ビデオ用ピンケーブル(1本付属)

光ファイバーケーブルのキャップについて

光ファイバーケーブルにキャップがついている場合は、取り外してから接続してください。また、端子の形状をご確認のうえ、正しい向きで接続してください。

HDMIについて

HDMI端子を使えば、1本のケーブルで映像および音声信号を伝送するので、簡単に接続することが可能です。HDMI端子を使って接続する場合は、本機とテレビ、および本機と再生機器の両方をHDMI接続してください。HDMI接続について詳しくは、「HDMI端子を使って接続する」をご参照ください(22ページ)。

また、HDMIを使ったコントロール機能に対応しているテレビ(一部を除く)と本機をHDMI接続すれば、テレビのリモコンで本機の電源などを操作することができます(59ページ)。

入力ソース	音声信号の種類
DVD Video	ドルビーデジタル、DTS、PCM
DVD Audio	最大96kHz/24bit PCM
ブルーレイディスク HD DVD	ドルビーデジタル、DTS、PCM

本機は2チャンネルPCMに対応しています。マルチチャンネルPCMには対応していません。

ヒント

- 本機のHDMIは著作権保護技術(HDCP:High-bandwidth Digital Content Protection System)に対応しています。
- 接続には19ピンのHDMIケーブルで、HDMIロゴのついているものをお使いください。また、長さ5.0m以下のものを使うことをおすすめします。
- HDMI接続した機器からの入力信号情報を確認することができます(71ページ)。

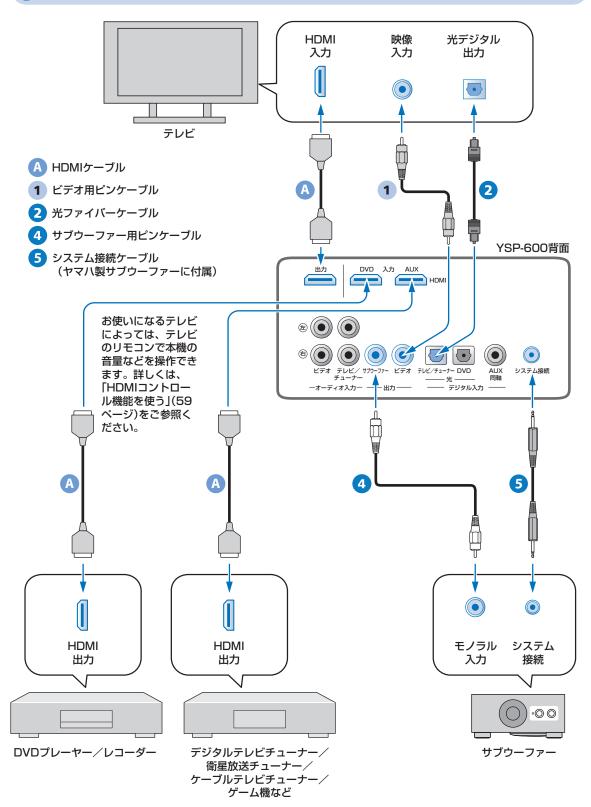
音声入力信号の優先順位について

1つの再生機器から本機に複数の音声信号が同時に入力されている場合、本機は以下の優先順位で音声信号を再生します。

HDMI→デジタル→アナログ

初期状態では、各入力ソースに対して以下の端子が割り当てられています。

端子／入力ソース	HDMI	デジタル	アナログ
テレビ／チューナー		○	○
DVD	○	○	
AUX	○	○	
ビデオ			○

HDMI端子を使って接続する

テレビ、DVDプレーヤー／レコーダー、デジタルテレビチューナー、衛星放送チューナー、ケーブルテレビチューナー、ゲーム機にHDMI端子がある場合、HDMIケーブルを使えば簡単に接続することができます。

テレビの接続

・テレビのHDMI入力端子と本機のHDMI出力端子を接続します。
・テレビの光デジタル出力端子と本機の光デジタル入力(テレビ／チューナー)端子を光ファイバーケーブルで接続します。デジタル放送のデジタル音声を楽しむことができます。
・テレビに光デジタル音声出力端子がない場合は、光ファイバーケーブルの代わりにステレオピンケーブルでアナログ音声出力端子と本機のオーディオ入力(テレビ／チューナー)端子を接続してください。
・本機のメニュー表示用にテレビの映像入力端子と本機の出力(ビデオ)端子をビデオ用ピンケーブルで接続します。これにより、テレビ画面で音量や入力選択されている機器名などの情報を見たり、メニューを使って簡単にリスニング環境を設定できるようになります(34、60ページ)。

DVDプレーヤー／レコーダーの接続

・DVDプレーヤー／レコーダーのHDMI出力端子と本機のHDMI入力(DVD)端子を接続します。

デジタル、衛星放送、ケーブルテレビチューナー／ゲーム機の接続

・デジタル、衛星放送、ケーブルチューナー／ゲーム機のHDMI出力端子と本機のHDMI入力(AUX)端子を接続します。

サブウーファーの接続

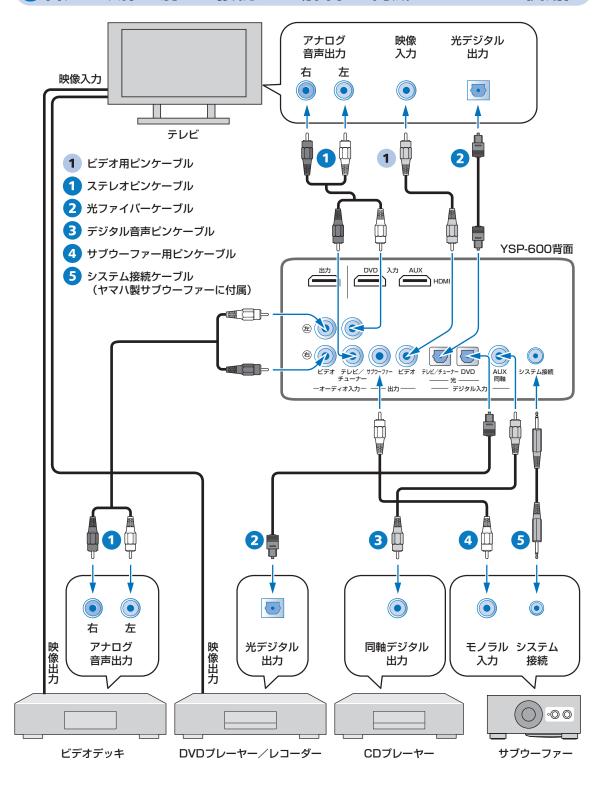
・サブウーファーのモノラル入力端子と本機の出力(サブウーファー)端子を接続します。

ヒント

・デジタル放送対応のテレビでデジタル放送を楽しむ場合は、デジタル、衛星放送、ケーブルテレビチューナーの接続は必要ありません。
・システム接続端子があるヤマハ製サブウーファーを接続する場合は、サブウーファー用ピンケーブルでの接続に加えて、システム接続ケーブルで本機のシステム接続端子に接続します。システム接続をすることにより、本機の電源のオン／スタンバイとサブウーファーの電源のオン／スタンバイを連動させることができます。詳しくはサブウーファーに付属の取扱説明書をご参照ください。

ご注意

・テレビと本機をHDMI接続した場合でも、ビデオ用ピンケーブルによる接続は必ず行ってください。接続しないと本機からの情報が表示されません。
・デジタル放送対応のテレビをご使用の場合、デジタル出力のAACが有効になっていることをご確認ください(テレビ側の設定)。詳しくは、ご使用のテレビに付属している取扱説明書をご参照ください。
・DVDプレーヤー／レコーダーのデジタル音声出力設定で、ドルビーデジタル、DTS(またはビットストリーム)が有効になっていることをご確認ください。詳しくは、ご使用のDVDプレーヤー／レコーダーに付属している取扱説明書をご参照ください。
・サブウーファーを本機に接続しただけでは、サブウーファーから音は出力されません。サブウーファーから音を出力するには、接続終了後に**サブウーファーの電源をオンにした状態で自動設定を行う**(34ページ)か、詳細設定の「「バス出力」を設定する」(67ページ)で「サブウーファー」を選択してください。

音声と映像を別々に接続する場合（TV内蔵チューナーを使用）

テレビの接続

- テレビの光デジタル出力端子と本機の光デジタル入力(テレビ／チューナー)端子を光ファイバーケーブルで接続します。デジタル放送のデジタル音声を楽しむことができます。
- 本機のメニュー表示用にテレビの映像入力端子と本機の出力(ビデオ)端子をビデオ用ピンケーブルで接続します。これにより、テレビ画面で音量や入力選択されている機器名などの情報を見たり、メニューを使って簡単にリスニング環境を設定できるようになります(34、60ページ)。
- テレビに光デジタル音声出力端子がない場合や、デジタル放送に加えてアナログ放送の音声も楽しむ場合は、テレビのアナログ音声出力端子と本機のオーディオ入力(テレビ／チューナー)端子をステレオピンケーブルで接続します。

DVDプレーヤー／レコーダーの接続

- DVDプレーヤー／レコーダーの光デジタル出力端子と本機の光デジタル入力(DVD)端子を光ファイバーケーブルで接続します。
- 映像出力は直接テレビの映像入力端子に接続します。詳しくは、DVDプレーヤー／レコーダーの取扱説明書をご参照ください。
- ビデオデッキ一体型DVDプレーヤー／レコーダーと接続する場合は、デジタル接続に加えて、DVDプレーヤー／レコーダーのアナログ音声出力端子と本機のオーディオ入力(ビデオ)端子をステレオピンケーブルで接続します。

ビデオデッキの接続

- ビデオデッキのアナログ音声出力端子と本機のオーディオ入力(ビデオ)端子をステレオピンケーブルで接続してください。
- 映像出力は直接テレビの映像入力端子に接続します。詳しくは、ビデオデッキの取扱説明書をご参照ください。

サブウーファーの接続

- サブウーファーのモノラル入力端子と本機の出力(サブウーファー)端子を接続します。

ヒント

- DVDプレーヤー／レコーダーに光デジタル出力端子がない場合は、左図CDプレーヤーの代わりにDVDプレーヤー／レコーダーを同軸デジタル接続してください。
- お使いになるテレビによっては、光デジタル出力端子からもアナログ音声が出力されるものもあります。その場合、アナログ音声出力端子の接続は必要ありません。音声出力に関して詳しくは、テレビの取扱説明書をご参照ください。
- システム接続端子があるヤマハ製サブウーファーを接続する場合は、サブウーファー用ピンケーブルでの接続に加えて、システム接続ケーブルで本機のシステム接続端子に接続します。システム接続をすることにより、本機の電源のオン／スタンバイとサブウーファーの電源のオン／スタンバイを連動させることができます。詳しくはサブウーファーに付属の取扱説明書をご参照ください。

ご注意

- DVDプレーヤー／レコーダーのデジタル音声出力設定で、ドルビーデジタル、DTS(またはビットストリーム)が有効になっていることをご確認ください。詳しくは、ご使用のDVDプレーヤー／レコーダーに付属している取扱説明書をご参照ください。
- サブウーファーを本機に接続しただけでは、サブウーファーから音は出力されません。サブウーファーから音を出力するには、接続終了後に**サブウーファーの電源をオンにした状態で自動設定を行う**(34ページ)か、詳細設定の「「バス出力」を設定する」(67ページ)で「サブウーファー」を選択してください。

音声と映像を別々に接続する場合(CATVなど外部チューナーを利用する場合)

デジタル、衛星放送、ケーブルテレビチューナー／ゲーム機を使用する場合の接続方法です。

デジタル、衛星放送、ケーブルテレビチューナー／ゲーム機の接続

- デジタル、衛星放送、ケーブルテレビチューナー／ゲーム機の光デジタル出力端子と本機の光デジタル入力(テレビ／チューナー)端子を光ファイバーケーブルで接続します。デジタル放送のデジタル音声を楽しむことができます。
- デジタル、衛星放送、ケーブルテレビチューナー／ゲーム機に光デジタル音声出力端子がない場合や、デジタル放送に加えてアナログ放送の音声も楽しむ場合は、テレビのアナログ音声出力端子と本機のオーディオ入力(テレビ／チューナー)端子をステレオピンケーブルで接続します。

テレビの接続

- 本機のメニュー表示用にテレビの映像入力端子と本機の出力(ビデオ)端子をビデオ用ピンケーブルで接続します。これにより、テレビ画面で音量や入力選択されている機器名などの情報を見たり、メニューを使って簡単にリスニング環境を設定できるようになります(34、60ページ)。

DVDプレーヤー／レコーダーの接続

- DVDプレーヤー／レコーダーの光デジタル出力端子と本機の光デジタル入力(DVD)端子を光ファイバーケーブルで接続します。
- 映像出力は直接テレビの映像入力端子に接続します。詳しくは、DVDプレーヤー／レコーダーの取扱説明書をご参照ください。
- ビデオデッキ一体型DVDプレーヤー／レコーダーと接続する場合は、デジタル接続に加えて、DVDプレーヤー／レコーダーのアナログ音声出力端子と本機のオーディオ入力(ビデオ)端子をステレオピンケーブルで接続します。

ビデオデッキの接続

- ビデオデッキのアナログ音声出力端子と本機のオーディオ入力(ビデオ)端子をステレオピンケーブルで接続してください。
- 映像出力は直接テレビの映像入力端子に接続します。詳しくは、ビデオデッキの取扱説明書をご参照ください。

サブウーファーの接続

- サブウーファーのモノラル入力端子と本機の出力(サブウーファー)端子を接続します。

ヒント

- DVDプレーヤー／レコーダーに光デジタル出力端子がない場合は、左図CDプレーヤーの代わりにDVDプレーヤー／レコーダーを同軸デジタル接続してください。
- お使いになるテレビによっては、光デジタル出力端子からもアナログ音声が出力されるものもあります。その場合、アナログ音声出力端子の接続は必要ありません。音声出力に関して詳しくは、テレビの取扱説明書をご参照ください。
- システム接続端子があるヤマハ製サブウーファーを接続する場合は、サブウーファー用ピンケーブルでの接続に加えて、システム接続ケーブルで本機のシステム接続端子に接続します。システム接続をすることにより、本機の電源のオン／スタンバイとサブウーファーの電源のオン／スタンバイを連動させることができます。詳しくはサブウーファーに付属の取扱説明書をご参照ください。

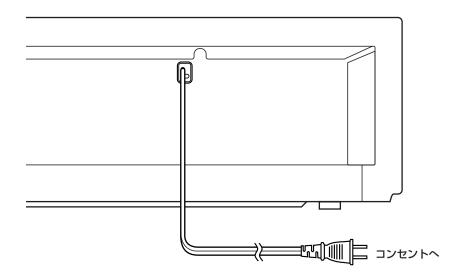
ご注意

- デジタル放送対応のチューナーをご使用の場合、デジタル出力のAACが有効になっていることをご確認ください(チューナー側の設定)。詳しくは、ご使用のチューナーに付属している取扱説明書をご参照ください。
- サブウーファーを本機に接続しただけでは、サブウーファーから音は出力されません。サブウーファーから音を出力するには、接続終了後に**サブウーファーの電源をオンにした状態で自動設定を行う**(34ページ)か、詳細設定の「「バス出力」を設定する」(67ページ)で「サブウーファー」を選択してください。

電源コードを接続する

すべての接続が終了したら、本機の電源コードを家庭用AC100Vのコンセントに接続します。

ご注意

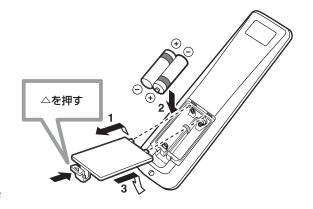
- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 本機を移動するとき、本機の手入れをするとき、接続をやり直すときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

リモコンの準備をする

リモコンに電池を入れる

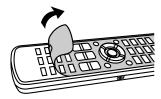
1 バッテリーカバーの△マークを押しながら、カバーをリモコンから取り外す

2 付属の単3乾電池(2本)を、電池ケースに挿入する

電池の向き(+/−極性)を正しく挿入してください。

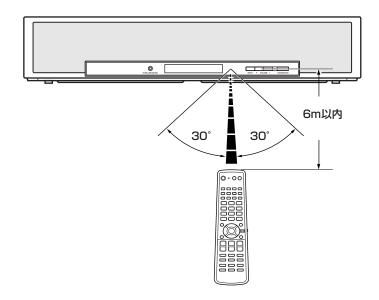
3 バッテリーカバーをリモコンに装着する

ヒント

リモコンの外装保護シートは、はがしてご利用ください。

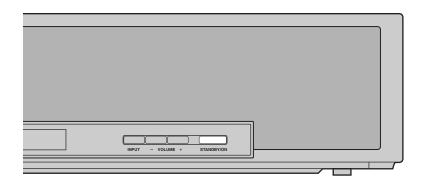
ご注意

- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の異なる電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性質の異なる場合がありますのでご注意ください。
- 使い切った電池はただちにリモコンから取り出してください。リモコンに挿入したままにしておくと、破裂や液漏れの原因となります。
- 使い切った電池は地域の条例または取り決めに従って廃棄してください。
- 電池が液漏れしている場合は、ただちに電池をリモコンから取り出し、廃棄してください。その際、肌や衣服が漏れているバッテリー液にふれることのないよう十分ご注意ください。
  リモコンにバッテリー液が付着している場合はきれいに拭き取ってから新しい電池を挿入してください。
- リモコンから電池を取り出したら**2分以内に**新しい電池を挿入してください。これ以上の時間が経過すると、リモコンの設定内容が消去されます。また、電池が切れてから2分に満たない場合でも、電池の交換中にリモコンのキーを押すと、設定が消えてしまうことがありますので、ご注意ください。

リモコンの操作範囲

リモコンで本機を操作する際は、リモコンの赤外線送信部を本体のリモコン受光窓（13ページ）に向けます。リモコン操作が可能な範囲は、本体から6m以内で正面から左右に30° 以内です。

ご注意

- リモコンに水や飲み物などをこぼさないようご注意ください。
- リモコンを落としたり、強い衝撃を与えたりしないようご注意ください。
- リモコンを以下のような場所に放置しないでください。
  - 気温・湿度が高い場所（ヒーターの近くや風呂場など）
  - 極端に気温が低い場所
  - ほこりっぽい場所
- リモコン受光窓には直射日光や蛍光灯などの強い光や液晶テレビの画面から発生する赤外線ノイズが当たらないようにしてください。
- リモコンの電池が消耗すると、リモコンで本機を操作できる距離が極端に短くなります。このような場合、早めに新しい電池と交換してください。

設定・操作の準備をする

電源をオン／スタンバイにする

本体のSTANDBY/ONキーまたはリモコンの電源キーを押す

押すたびに電源のオン／スタンバイが切り替わります。電源をオンにすると、フロントパネルディスプレイに音量(46ページ)が表示され、続いて再生する機器名(43ページ)と、現在選択されているビームモード名(47ページ)が表示されます。

テレビ画面にメニューを表示する

本機の出力（ビデオ）端子とテレビの映像入力端子を接続することにより（22、24、26ページ）、テレビ画面で本機のメニューを見ながら本機を設定することができます。

ヒント

詳細設定の「メニューの表示を設定する（メニュー画面設定）」（73ページ）で、メニュー表示に関する設定を変更することができます。

1 本機の電源をオンにする

本機の電源について詳しくは、「電源をオン／スタンバイにする」（31ページ）をご参照ください。

2 テレビの電源をオンにする

3 テレビの映像入力切替を操作して本機の映像に切り替える

テレビに以下のような画面が表示されます。

画面が表示されない場合は、ビデオ用ピンケーブルが正しく接続されているか確認してください（22、24、26ページ）。

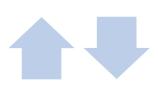
YSP-600

[メニュー]：メニューへ

設定の流れ

本機をリスニングルームの環境に合うように設定します。

自動設定(インテリビーム)を行います。

「本機を自動設定する(インテリビーム)」(34ページ)

エラーが表示されたら

エラーメッセージを確認して問題を解決します。

「エラーメッセージとエラー後の操作について」(39ページ)

音声を再生したり、ビームモードの設定を変更します。

「入力音声を再生する」(43ページ)、「サラウンド再生を楽しむ」(47ページ)

**より高精度なサラウンド
サウンドを追求したい方は**

詳細設定を行います。

「本機を詳細に設定する」(60ページ)

ヒント

- **反射ビームの音がはっきり聞こえないチャンネルがある場合は**
「設置環境の設定により、ビームを調節する(設置視聴環境)」(63ページ)または「ビームの水平角度・経路長・焦点距離・高音レベルを個別に設定する(ビーム調整)」(64ページ)を行います。
- **ビーム経路上にカーテンなど吸音性の高いものがある場合は**
「4「高音レベル」を設定する」(65ページ)を行います。

本機を自動設定する（インテリビーム）

リスニングルームの形状と大きさ、本機が設置されている場所などは、ご家庭によってさまざまです。本機を最適な視聴空間でご利用いただくためには、最初に各チャンネルの設定を調節する必要があります。

本機には、各チャンネルの設定を自動的に調節する機能として、「ビーム調整」および「音質調整」が搭載されています。この2つの機能を合わせてインテリビームといいます。「ビーム調整」とは、リスニングルームの形状や大きさなどに応じて、各チャンネルのビーム角度を最適な設定値に調節する機能です。「音質調整」とは、リスニングルームの音響特性などを測定し、各チャンネルの音色を最適な設定値に調節する機能です。

本機では、付属のマイク（インテリビームマイク）を使用して、この2種類の設定を自動的に調節することができます。

ヒント

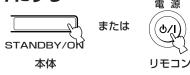
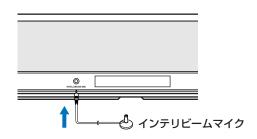
自動設定されたデータはメモリーに保存することができます（40ページ）。リスニングルームの状況に合わせてそれぞれのデータを保存し、ご使用の際に設定を切り替えると便利です。

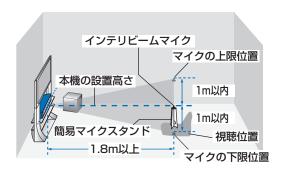
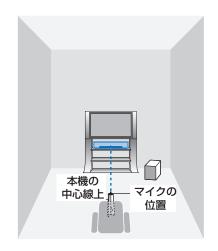
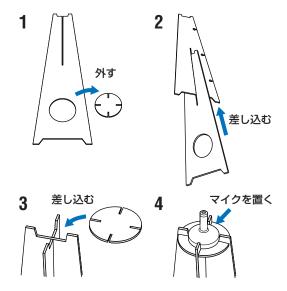
ご注意

- お部屋の環境が「効果的なサラウンドのために」（10ページ）に記載されている項目にあてはまる場合は、測定が正しく行われないことがあります。その場合は「詳細設定」（60ページ）を行ってください。
- インテリビームマイクを接続する際は、延長ケーブルを使用しないでください。測定が正しく行われないことがあります。
- 自動設定機能を使用していないときは、インテリビームマイクをINTELLIBEAM MIC端子から外して保管してください。
- インテリビームマイクは熱に弱いため、直射日光が当たる場所やAV機器の上など高温になる場所には置かないでください。
- インテリビームマイクを本体に接続した状態で、本体を手前に倒さないでください。

インテリビームマイクを設置する

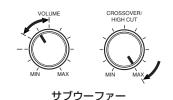
本機前面のINTELLIBEAM MIC端子に付属のインテリビームマイクを接続し、視聴位置に設置します。

1 本機の電源がオンの場合は、スタンバイにする

2 インテリビームマイクを本体のINTELLIBEAM MIC端子に接続する

3 インテリビームマイクを実際に視聴する位置に水平に設置する

マイクは本機から1.8m以上離し、本機の中心線上(本機正面)に設置してください。また、本機の中心から上下1m以内の高さに設置してください。
付属の簡易マイクスタンドなどの台を利用して、なるべく視聴時の耳の高さとなる位置に設置してください。
ソファーの背もたれなど、マイクと壁の間に障害物がある場合には、障害物を移動したり、マイクをより高い場所に設置してください。壁に接している家具は壁と見なしますので、障害物ではありません。

簡易マイクスタンドの組立て方法

ヒント

- インテリビームマイクを本機から1.8m以内に設置した場合、マイクを本機の中心線上に設置していない場合、マイクと本機の中心との高さの差異が1m以上の場合は、測定エラーになることがあります。この場合はマイクを正しい場所に設置し直してから、再度測定してください。
- インテリビームマイクの位置周辺で視聴できない環境下では、サラウンド効果が薄れることがあります。このような場合、詳細設定でお好みのビーム角度に設定することができます(60ページ)。
- サブウーファーを接続している場合は、電源を入れて、音量を半分または半分よりやや小さめ(下図(左)の位置)に設定してください。クロスオーバー／ハイカット周波数の調節機能がある場合は、クロスオーバー／ハイカット周波数を最大(下図(右)の位置)に設定してください。

サブウーファー

本機について
設置・接続する
準備する
設定する
基本操作
応用操作
付録

自動的に測定・設定する

自動設定には「ビーム調整＋音質調整」、「ビーム調整」、「音質調整」の3つの選択項目があります。

選択項目について

「ビーム調整＋音質調整」
購入後、初めて設定を行う場合に選択します。測定開始から終了まで約3分です。
「ビーム調整＋音質調整」を行いたい場合、手順3でメニューキーの代わりに自動設定キーを2秒以上押すと、手順4および手順5の操作を省略できます。

「ビーム調整」
ご利用の環境に合わせてビーム角度を設定する場合に選択します。測定開始から終了まで約1分です。

「音質調整」
音質、音量バランス、音が聞こえるタイミングを設定する場合に選択します。測定開始から終了まで約2分です。
「音質調整」はビーム角度を設定したあとで実行してください。ビーム角度が正しく設定されていない場合は、正常に測定できません。カーテンの開閉後、またはビーム角度を「詳細設定」で調節したあとなどにご使用ください。

ご注意

- 測定中は大きなテスト音が出力されます。小さなお子様がお部屋にいる場合やお部屋に入ってくる可能性がある場合は、自動設定機能を使用しないでください。聴覚障害などの原因となる場合があります。
- 測定中はお部屋の外に出てください。お部屋の中にいると、ビーム経路に重なってしまったり、マイクが声や音を拾ってしまったりして、最適な設定が行われない場合があります。
- 壁にカーテンやブラインドなどがかかっているお部屋では、ビーム設定が正確に行われないことがあります。そのようなお部屋で測定する場合、以下の手順で設定することをおすすめします。
  ①カーテンやブラインドを開ける ②「ビーム調整」を行う ③カーテンやブラインドを閉める ④「音質調整」を行う
- エアコンなど騒音を発生する機器がある場合は、電源を切ってください。

ヒント

- 設定の途中で前の画面に戻って選択し直したいときは、戻るキーを押してください。
- メニューを操作中にカーソルキーの操作ができなくなった場合は、TV/AV/YSPスイッチがTV/AV側に設定されていないか確認してください。メニューを操作するには、YSP側にスライドさせてください。

1 電源（⏻/I）キーを押して、本機の電源をオンにする

サブウーファーを接続している場合は、サブウーファーの電源がオンになっていることを確認してください。

2 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

リモコンがYSPモードに切り替わります。

3 メニューキーを押す

テレビ画面にメニューが表示されます。
メニュー下部の表示は操作方法を表しています。

ヒント

「ビーム調整＋音質調整」(36ページ)を行いたい場合、メニューキーの代わりに自動設定キーを2秒以上押すと、以下のような画面が表示されます。その場合、手順4および手順5の操作を省略し、手順6へお進みください。

自動設定 確認・準備
マイクを接続してください
マイクを本体の正面で1.8m以上離し、
正しい高さに設置してください
測定にはおよそ3分かかります
決定を押したら部屋から出てください
[決定]:開始 [戻る]:中止

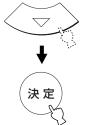
4 △/▽キーを押して「自動設定」を選択し、決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。

・自動設定
→ 1) ビーム調整+音質調整
2) ビーム調整
3) 音質調整
[▲]/[▼]:選択
[決定]:決定

5 △/▽キーを押して、「ビーム調整＋音質調整」、「ビーム調整」、「音質調整」のいずれかを選択し(36ページ)、決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。

自動設定 確認・準備
マイクを接続してください
マイクを本体の正面で1.8m以上離し、
正しい高さに設置してください
測定にはおよそ3分かかります
決定を押したら部屋から出てください
[決定]:開始 [戻る]:中止

6 マイクの位置について、以下のことを確認する

・本機の正面に設置されていますか。
・本機から上下1m以内の高さに設置されていますか。
・本機から1.8m以上離れた場所に設置されていますか。

7 決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。
測定中はお部屋の外に出てください。
測定開始から終了まで、最長で約3分かかります。

自動設定開始
10秒後に測定を開始します
部屋から出てください
***--------
[戻る]:中止

ヒント

測定中に自動設定を中止したい場合は、戻るキーを押してください。

測定中の項目に従って、画面が自動的に切り替わります。エラー音(ブザー音)が出力された場合、画面のエラーメッセージを確認し、「エラーメッセージとエラー後の操作について」(39ページ)を参照してください。

測定が終了すると終了音(チャイム音)が出力され、以下のような画面が表示されます。手順5で「ビーム調整」を選択した場合、サブウーファーの測定結果は表示されません。

〈表示例1〉

測定結果
測定が終了しました
ビームモード　：5ビーム
サブウーファー：有
［決定］：設定する
［戻る］：設定しない

〈表示例2〉

測定結果
測定が終了しました
環境チェック・・・［NG］
ビームモード　：5ビーム
サブウーファー：有
［決定］：設定する
［戻る］：設定しない

ヒント

・〈表示例2〉のように「環境チェック・・・［NG］」と表示された場合は、再度測定することをおすすめします。詳しくは、手順8をご参照ください。
・サブウーファーの電源がオンになっているにもかかわらず、「サブウーファー：無」と表示された場合は、サブウーファーの音量を上げてから、設定をやり直してください。
・測定結果の画面に「ビームモード：5ビーム」と表示された場合でも、お部屋の状況によっては、フロントビームとサラウンドビームが同じ角度に設定されることがあります。

8 設定を有効にする場合は決定キーを、無効にする場合は戻るキーを押す

手順7で〈表示例1〉のような画面が表示された場合、決定キーを押すと以下の画面が表示され、測定結果が表示されます。2秒後にメニューが消えます。

設定が終了しました
マイクを外してください

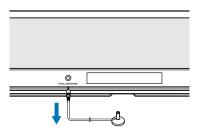
戻るキーを押して設定を無効にすると初期画面に戻ります。

手順7で〈表示例2〉のような画面が表示された場合、決定キーを押すと以下の画面が表示されます。

設定が終了しました
測定中に環境ノイズがありました
再設定することをおすすめします
［決定］キーを押してください

この場合、39ページの「エラー　E-1」をご参照ください。再度測定する場合は、決定キーを押してメニューが消えたことを確認し、手順3から操作し直してください。

9 マイクを外す

設定完了です。マイクは大切に保管してください。

測定結果は本機に記憶され、電源を切っても初期設定値には戻りません。ただし、自動設定をやり直したり、詳細設定で設定値を変更した場合は、設定結果が上書きされます。

ヒント

複数の設定結果をメモリーに保存したり、そのデータをお部屋の状況に応じて呼び出したい場合は「メモリー機能を使用する」(40ページ)をご参照ください。

エラーメッセージとエラー後の操作について

テレビ画面にエラーメッセージが表示された場合は、原因を確認し問題を解決してください。
その後、「エラー E-1」の場合は、決定キーを押して再度測定してください。
その他のエラーの場合は、戻るキーを押してください。手順3で自動設定キーを押して測定を開始した場合、メニュー画面が消えたことを確認し、手順3から操作し直してください(37ページ)。
メニューキーを押して測定を開始した場合、手順3の画面(メニューの初期画面)が表示されたことを確認し、手順4から操作し直してください(37ページ)。
エラーが解決できない場合は、詳細設定を行ってください(60ページ)。

エラー　E-1: 環境ノイズが大きすぎます

原因	対策
騒音が大きすぎて、正確な測定ができません。	エアコンなど騒音を発生する機器の電源を一時的に切るか、それらの機器から離してください。
	周囲が静かな時間帯にやり直してください。

エラー　E-2: マイクの接続を確認してください

原因	対策
インテリビームマイクが接続されていません。	本機前面のINTELLIBEAM MIC端子にインテリビームマイクを接続してください。

エラー　E-3: 測定中に操作されました

原因	対策
測定中に音量の調節、消音などの操作が行われました。	測定中は本機を操作しないでください。

エラー　E-4: マイクを本体の正面に設置してください

原因	対策
インテリビームマイクが本機正面の延長線上に置かれていません。	インテリビームマイクを本機正面の延長線上に設置してください。

エラー　E-5: マイクを本体から1.8m以上離して設置してください

原因	対策
インテリビームマイクが本機から1.8m未満の場所に設置されています。	インテリビームマイクを本機から1.8m以上離して設置してください。

エラー　E-6: マイクから十分な入力がありません マイクの接続・設置位置を確認してください

原因	対策
テスト音が取得できません。	インテリビームマイクを正しく接続、設置してください。

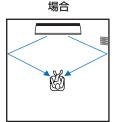
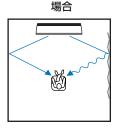
エラー　E-7: エラーです　再度、実行してください

原因	対策
本機内部にエラーが発生しました。	再度測定してください。

メモリー機能を使用する

メモリーの便利な使い方

リスニングルームの状況に応じて設定を切り替えたい場合、測定結果をメモリーに保存しておくと便利です。測定結果のデータは最大3つまで保存することができます。例えば、ビーム経路上にカーテンがある場合などは、カーテンの開閉によってビームの効果が変化します。

カーテンが開いている場合

カーテンが閉じている場合

このような場合、カーテンが開いている状態で「ビーム調整＋音質調整」を行い、測定結果を「メモリー1」に保存します。次にカーテンが閉じている状態で「音質調整」を行い、測定結果を「メモリー2」に保存します。このようにすると、ご使用の際にリスニングルームの状況に応じて設定を切り替えることができ、最適な環境でサラウンドサウンドがお楽しみいただけます。

設定結果をメモリーに保存する

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

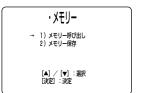
リモコンがYSPモードに切り替わります。

2 メニューキーを押す

テレビ画面にメニューが表示されます。

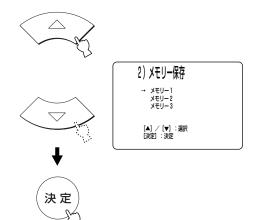
ヒント

設定の途中で前の画面に戻って選択し直したいときは、戻るキーを押してください。

3 矢印が「メモリー」にあることを確認して、決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。

4 △／▽キーを押して「メモリー保存」を選択し、決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。

5 △／▽キーを押して「メモリー1」「メモリー2」「メモリー3」のいずれかを選択し、決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。

2）メモリー保存

メモリー1保存？

[決定]：実行

6 もう一度決定キーを押す

選択した項目に測定結果が登録されます。

登録されると以下の初期画面に戻ります。

7 メニューキーを押す

テレビ画面からメニューが消えます。

保存したメモリーを呼び出す

設定したデータをメモリーに保存した場合(40ページ)、そのデータを呼び出すことができます。ご使用の際に、リスニングルームの状況にあったメモリーを呼び出して、最適な環境でサラウンドサウンドをお楽しみください。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

リモコンがYSPモードに切り替わります。

2 メニューキーを押す

テレビ画面にメニューが表示されます。

3 矢印が「メモリー」にあることを確認して、決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。

4 矢印が「メモリー呼び出し」にあることを確認して、決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。

5 △/▽キーを押して呼び出したい項目を選択し、決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。

メモリー1呼び出し?

[決定]:実行

6 もう一度決定キーを押す

選択した項目のメモリーを呼び出します。

呼び出しが完了すると初期画面に戻ります。

7 メニューキーを押す

テレビ画面からメニューが消えます。

入力音声を再生する

再生したい機器を切り替える

入力選択キーを押すと、本機に接続したそれぞれの機器の入力が選択され、選んだ機器の音声を再生することができます。フロントパネルディスプレイに、再生する機器名と現在選択されている入力モード(76ページ)が表示されます。

テレビを再生したい場合は

テレビキーを押します。

TV/STB AUTO

DVDプレーヤーを再生したい場合は

DVDキーを押します。

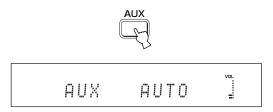
DVD AUTO

テレビチューナーを再生したい場合は

チューナーキーを押します。

TV/STB AUTO

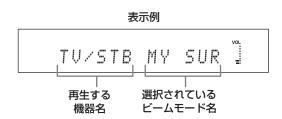
AUX端子に接続した機器を再生したい場合は

AUXキーを押します。

ビデオデッキを再生したい場合は

ビデオキーを押します。

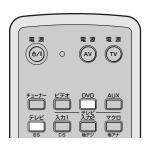
ヒント

それぞれのキーを押してから数秒経つと、フロントパネルディスプレイに、再生する機器名と現在選択されているビームモード名が表示されます。

表示例

テレビやDVDを楽しむ

入力音声を再生する例として、ここではテレビとDVDの再生方法を紹介します。
テレビやDVDプレーヤーの機能については、それぞれに付属している取扱説明書をご参照ください。

ヒント

- DVDを再生する場合、DVDプレーヤーの音声設定を5.1チャンネルモードにすると、より豊かなサラウンドサウンドをお楽しみいただけます。
- リモコンコードを設定している場合は、テレビやDVDプレーヤーを本機のリモコンで操作することができます(81ページ)。

テレビを再生する

1　テレビのリモコンで、見たいチャンネルを選ぶ

2　本機のリモコンのテレビキーを押す

テレビの再生モードに切り替わります。

3　テレビのスピーカーから音声が聞こえる場合は、聞こえなくなるまでテレビの音量を下げる

DVDを再生する

1　テレビの映像入力切替を操作して、DVDプレーヤーの映像に切り替える

2　本機のリモコンのDVDキーを押す

DVDの再生モードに切り替わります。

3　DVDプレーヤーで、ディスクを再生する

4　テレビのスピーカーから音声が聞こえる場合は、聞こえなくなるまでテレビの音量を下げる

デジタル音声信号の入力を確認する

テレビやDVDプレーヤーと本機を光ファイバーケーブルやデジタル音声ピンケーブル、HDMIケーブルで接続している場合、テレビやDVDのデジタル音声信号が本機に入力されているか確認することができます。

テレビの場合

1 「テレビを再生する」(44ページ)を参考に、BS/地上デジタル放送を再生する

2 フロントパネルディスプレイ表示を確認する

フロントパネルディスプレイにAACインジケーターが点灯していることを確認します。このとき、テレビのBS/地上デジタル放送の信号は本機に正しく入力されています。

TV/STB AUTO (AAC, VOL)

ご注意

- AACインジケーターが点灯しない場合、デジタル信号は入力されていません。その場合、以下の点についてご確認ください。
  - －本機とテレビはデジタル接続されていますか(22、24、26ページ)。
  - －テレビ側のデジタル出力設定はオンになっていますか。
  - －テレビ側のビットストリーム出力設定はオンになっていますか。
  - －テレビ側のAAC出力設定はオンまたは自動(AUTO)になっていますか。

  インジケーター表示については「内蔵デコーダーとインジケーター表示(50ページ)をご参照ください。

DVDの場合

1 「DVDを再生する」(44ページ)を参考に、付属のサラウンド確認用DVDを再生する

2 フロントパネルディスプレイ表示を確認する

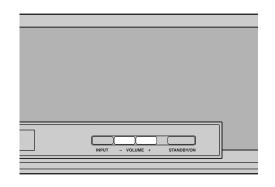
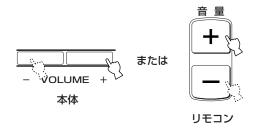
フロントパネルディスプレイにMULTIインジケーターが点灯していることを確認します。このとき、DVDのマルチチャンネルデジタル信号は本機に正しく入力されています。

DVD AUTO (MULTI, VOL)

ご注意

- MULTIインジケーターが点灯しない場合、マルチチャンネルデジタル信号は入力されていません。その場合、以下の点についてご確認ください。
  - －本機とDVDプレーヤーはデジタル接続されていますか(22、24、26ページ)。
  - －DVDプレーヤー側のデジタル出力設定はオンになっていますか。
  - －DVDプレーヤー側のビットストリーム出力設定はオンになっていますか。

  インジケーター表示については「内蔵デコーダーとインジケーター表示(50ページ)をご参照ください。

音量を調節する

音量を上げるには本体のVOLUME＋キーまたはリモコンの音量＋キー、下げるには本体のVOLUME−キーまたはリモコンの音量−キーを押す

VOLUME 30

VOLUME（音量）調節範囲：
MIN（最小）、01～99、MAX（最大）

ヒント

音量を45程度まで上げても音声が聞こえない場合は、「故障かな？と思ったら」（89ページ）をご参照ください。

消音する

消音キーを押す

フロントパネルディスプレイに「AUDIO MUTE ON」と表示され、VOLUMEインジケーターが点滅します。

AUDIO MUTE ON

DVD 5BEAM

消音を解除してもとの音量に戻すには

消音キーを再度押す、または音量＋/−キーを押します。

ヒント

「消音のレベルを設定する」（68ページ）で、消音キーを押したときに完全に消音するか、20dB下げるかを選択することができます。

サラウンド再生を楽しむ

ビームモードキーを使って、ビームモードを変更することにより、最大5.1チャンネルのサラウンド再生を楽しむことができます。「5ビーム」、「ST+3ビーム」、「3ビーム」、「マイサラウンド」の4つのビームモードを、お好みで切り替えてください。

ヒント

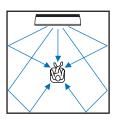
・詳細設定の「1 設置視聴環境1／3の「本体設置位置」を設定する」(63ページ)で「コーナー置き」を選択した場合は、「5ビーム」および「3ビーム」は選択できません。この場合、5ビームキーまたは3ビームキーを押すと、フロントパネルディスプレイに「SP Pos. Corner!」と表示されます。
・「5ビーム」、「ST+3ビーム」、「3ビーム」、「マイサラウンド」の4つのビームモードでは、入力ソースがステレオ(2チャンネル)の場合でも、サラウンドで再生されます。その場合、サラウンドモードを切り替えることができます。詳しくは51ページをご参照ください。

5ビームで再生する

フロント左／右、センター、サラウンド左／右の5チャンネルから、ビーム化された音声を出力します。

ビーム経路とビームが反射する壁が確保されている場合には、最大のサラウンド効果が得られます。

マルチチャンネルで記録されている映画DVDの鑑賞や、2チャンネルソースをマルチチャンネルで再生したいときなど、サラウンド効果を存分に楽しみたい場合に最適です。

フロント左／右チャンネルは、壁に向けて出力されます。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

リモコンがYSPモードに切り替わります。

2 5ビームキーを押す

フロントパネルディスプレイに「5 BEAM MODE」と表示されます。

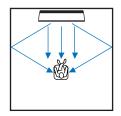
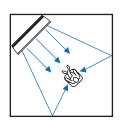
5 BEAM MODE　VOL

ST+3ビームで再生する

ビーム化しない通常のフロント左／右チャンネルの音声に、ビーム化したセンターチャンネルとサラウンド左／右チャンネルの音声を加え、5チャンネルで音声を出力します。

ライブDVDなどの鑑賞に最適です。中央付近からはボーカルの声や楽器の音が、横からは会場の反射音が聞こえ、まるでステージを前にしているような臨場感を楽しむことができます。

サラウンド左の音声信号はフロント左チャンネルのビームを使って出力され、サラウンド右の音声信号はフロント右チャンネルのビームを使って出力されます。

フロント左／右チャンネルは、直接視聴位置に向けて出力されます。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

リモコンがYSPモードに切り替わります。

2 ST+3ビームキーを押す

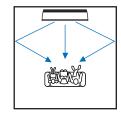
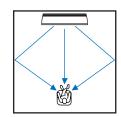
フロントパネルディスプレイに「ST+3 BEAM MODE」と表示されます。

ST+3 BEAM MODE　VOL

3ビームで再生する

フロント左／右、センターの3チャンネルから音声を出力します。

フロントビームだけを出力することによって音のスイートスポットが広がるため、広い範囲で良好なサラウンド感を得ることができます。ご家族で一緒に映画を見るときや、後方からのビーム経路がない場合（視聴位置が後方の壁に近い場合など）に最適です。

マルチチャンネルソースの場合は、サラウンド左／右チャンネルの音声をフロント左／右チャンネルにそれぞれミックスしてフロント左／右チャンネルのビームで出力します。これにセンターチャンネルのビームを加え、3つのビームで音声を出力します。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

リモコンがYSPモードに切り替わります。

2 3ビームキーを押す

フロントパネルディスプレイに「3 BEAM MODE」と表示されます。

3 BEAM MODE　VOL

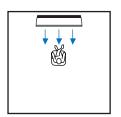
ヒント

詳細設定で「フロント左／右チャンネルのバランスを調節する（Lch/Rch位置調整）」（66ページ）を行うと、よりつながりのあるサラウンド感が得られます。

マイサラウンドで再生する

リスニングポジションが本機から近かったり、「効果的なサラウンドのために」(10ページ)の内容に該当するお部屋でも、サラウンド感溢れる音声を楽しむことができます。リスニングポジションが本機正面の場合に効果を発揮します。

ヒント

通常のリスニング環境でサラウンド再生を楽しむ場合は、「5ビーム」(47ページ)、「ST+3ビーム」(48ページ)、「3ビーム」(48ページ)を選択してください。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

2 マイサラウンドキーを押す

フロントパネルディスプレイに
「MY SURROUND」と表示されます。

MY SURROUND
VOL

ご注意

詳細設定の「ビーム設定」(63ページ)の値は無効になります。

内蔵デコーダーとインジケーター表示

本機では、内蔵したデコーダーにより、以下のさまざまなソースを楽しむことができます。

入力している音声信号は自動的に選択され、以下のようにフロントパネルディスプレイのインジケーターが点灯します。

状況	インジケーター表示
BS／CS／地上デジタル放送のAAC信号を入力している	AAC
BS／CS／地上デジタルまたはHDDレコーダーの音声多重信号を入力している	DUAL
PCM信号を入力している	PCM
DTSデジタル信号を入力している、またはDTS Neo:6を選択している	dts
ドルビーデジタル信号を入力している	DD DIGITAL
ドルビープロロジックを選択している	DD PL
ドルビープロロジックII を選択している	DD PL II
マルチチャンネルデジタル信号を入力している	MULTI

ヒント

・「入力する音声信号を切り替える（入力モード切り替え）」（76ページ）で、入力音声信号を選択することができます。

・DTS-ES対応のディスクはDTSで再生され、ドルビーデジタル5.1EX対応のディスクはドルビーデジタルで再生されます。

2チャンネルソースをサラウンドで楽しむ

本機では、2チャンネルソース(アナログソースやCDなど)をデコードし、最大5.1チャンネルで再生することができます。また、サラウンドモードを切り替えることによって、さまざまなサラウンド効果を楽しむことができます。

ヒント

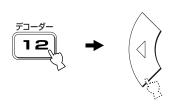
サラウンドモードの切替は、ビームモードが「5ビーム」、「ST+3ビーム」、「3ビーム」(47、48ページ)のいずれかに設定されているときにのみ有効です。

Neo:6 Cinema　dts 点灯
↓
Neo:6 Music　dts 点灯
↓
PRO LOGIC　DD PL 点灯
↓
PLII Movie　DD PLII 点灯
↓
PLII Music　DD PLII 点灯
↓
PLII Game　DD PLII 点灯

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

リモコンがYSPモードに切り替わります。

2 デコーダーキーを繰り返し押す、またはデコーダーキーを押してから ◁ / ▷ キーを押す

または

選択できるサラウンドモードとおすすめのソース

サラウンドモード		おすすめのソース
DTS Neo:6	Cinema Music	映画 音楽
ドルビー プロロジック	―	すべてのソース
ドルビー プロロジックII	Movie Music Game	映画 音楽 ゲーム

サラウンドモードのパラメーターを変更する

サラウンドモードでPLII MusicまたはNeo:6 Musicを選択している場合は、ソースにあわせてサウンドをアレンジすることができます。

1 △/▽キーを押して、パラメーターを選択する

2 ◁/▷キーを押して、設定値を変更する

選択できるパラメーターと変更できる設定値は次のとおりです。

ヒント

テレビ画面やフロントパネルディスプレイの表示が切り替わっても、そのまま操作することができます。

PANORAMA（PLII Music選択時）

フロント音場の広がり感を調節します。サラウンド音場につながるような広がり感を得ることができます。

選択項目：ON、OFF
初期設定：OFF

DIMENSION（PLII Music選択時）

フロント音場とサラウンド音場レベルを好みのバランスにすることができます。
－にするとサラウンド側、＋にするとフロント側が強くなります。

可変範囲：－3～STD～+3
初期設定：STD

C. WIDTH（PLII Music選択時）

センターからの音声を左右に振り分けることができます。
0にするとセンターのみ、7にするとフロントL/Rのみからセンター音声が出力されます。

可変範囲：0～7
初期設定：3

C. IMAGE（DTS Neo:6 Music選択時）

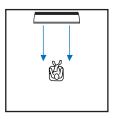
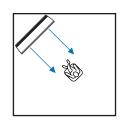
フロント音場の広がり感を調節します。
値を小さくするとフロント音場の広がりが大きくなり、大きくすると狭く（センターへの定位が強く）なります。

可変範囲：0.0～1.0
初期設定：0.3

ステレオ再生を楽しむ

ビームモードキーを使って、ビームモードを「STEREO」にすると、ステレオ再生を楽しむことができます。
フロント左／右の2チャンネルから、ビーム化しない通常の音声を出力します。
CDなどのハイファイステレオソースの再生に最適です。また、テレビのスピーカーの代わりとしてもご利用いただけます。
フロント左／右チャンネルは、直接視聴位置に向けて出力されます。
マルチチャンネルソースの場合は、フロント左／右チャンネル以外の音声をフロント左／右チャンネルにミックスして、フロント左／右チャンネルから出力します。

ヒント

ステレオ再生しているときは、サラウンドモード(51ページ)の機能は無効になります。

1 *TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる*

リモコンがYSPモードに切り替わります。

2 *ステレオキーを押す*

「STEREO MODE」と表示されます。

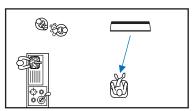
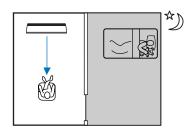
STEREO MODE　VOL

音声を明瞭に再生する（マイビーム）

ビームモードキーを使って、ビームモードを「マイビーム」にすると、テレビなどの音声を明瞭に再生できます。「マイビーム」では、ビーム化された音声を1チャンネルで出力します。

周囲が騒がしく、テレビの音声がはっきりと聞き取れないときに使用すると便利です。また、深夜に視聴する場合など、音量を小さくして「マイビーム」にすると、周囲に音が響きません。自動または手動でビームの角度を調節し、視聴位置に音声を向けてご利用ください。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

リモコンがYSPモードに切り替わります。

2 マイビームキーを押す

フロントパネルディスプレイに「MY BEAM」と表示されます。

MY BEAM　VOL

ヒント

マイビームキーを押してから数秒経つと、フロントパネルディスプレイに、選択されている機器名と「MY・BM」が表示され、「・」の部分が点滅します。

表示例

DVD　MY・BM　VOL

自動的にビーム角度を調節する

本機から出力されるテスト音をリモコンに内蔵されているマイクで測定することにより、視聴位置へ自動的にビームを向けることができます。

54ページの手順2で、マイビーム用マイクを本体に向けながらマイビームキーを2秒以上押す

本機左右から1回ずつテスト音が出力されます。

測定に失敗すると、エラー音が出力され、フロントパネルディスプレイに「MY BEAM ERROR」と表示されます。その場合、右記のご注意を参考に、再度操作してください。

角度(水平方向)調節範囲：左50°～右50°
動作保証範囲：6m、左30°～右30°

ご注意

- 周囲の騒音が大きい場合、エラーになることがあります。
- 測定中は、リモコンを振ったり動かしたりしないでください。
- エラーになることが多い場合、リモコンの電池が消耗している場合があります。その場合は、電池を交換してから再度操作してください。
- サンプリング周波数が64／88.2／96kHzの音声信号を再生している場合、自動的にビーム角度を調節することはできません。

手動でビーム角度を調節する

動作保証範囲の左右30°を超える角度に「マイビーム」を調節したい場合、再生している音声を聴きながら、手動でビームの角度を調節することができます。

1 フロントパネルディスプレイに「MY BEAM」と表示されている間に(54ページ手順2)、◁ / ▷ キーを押す

フロントパネルディスプレイに、現在設定されている角度の値が表示されます。
◁ キーを押すたびに左方向へ角度が大きくなり、▷ キーを押すたびに右方向へ角度が大きくなります。

ANGLE・・・・・・・・・0°

2 しばらくの間操作をしない

角度調節モードを終了します。

角度(水平方向)調節範囲：
左90°～右90°

ヒント

- 「マイビーム」を選択しているときには、サラウンドモード(51ページ)の機能は無効です。また、サブウーファーからは音声が出力されません。
- ナイトリスニング／テレビ音量一定モード(56ページ)と併用すると、より効果的に音声を出力できる場合があります。

本機について
設置・接続する
準備する
設定する
基本操作
応用操作
付録

音量を抑えて再生する(ナイトリスニングモード・テレビ音量一定モード)

ナイトリスニングモードとテレビ音量一定モードを合わせて音量モードといいます。ナイトリスニングモードとは、夜間に小音量で映画や音楽を楽しみたいときに、大きな効果音などを抑えてセリフなどは明瞭に再生する機能です。テレビ音量一定モードとは、テレビを再生中、CMなどで急に音量が大きくなるのを防ぐ機能です。

ナイトリスニングモードには、映画再生に適したCINEMAモードと音楽再生に適したMUSICモードが用意されています。再生するソースにあわせてモードを選択してください。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

リモコンがYSPモードに切り替わります。

2 音量モードキーを押す

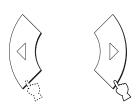
フロントパネルディスプレイに現在設定されているモードが表示されます。

3 音量モードキーを繰り返し押して、モードを選択する

フロントパネルディスプレイのNIGHTインジケーターまたはEQUALインジケーターが点灯します。

NIGHT:CINEMA
↓ (ナイトリスニングモード:映画用)
NIGHT:MUSIC
↓ (ナイトリスニングモード:音楽用)
TV EQUAL VOL
↓ (テレビ音量一定モード)
OFF (オフ)

4 各モードが表示されている間に ◁ / ▷ キーを押す

エフェクトレベル(音を抑えるレベル)を選択することができます。

Effect.Lvl:MIN (弱めに抑える)
↑↓
Effect.Lvl:MID (ほどよく抑える)
↑↓
Effect.Lvl:MAX (強めに抑える)

ヒント

リモコンの電源キーまたは本体のSTANDBY/ONキーを押すか、電源コードを抜くと、音量モードは解除されます。

ご注意

「マイサラウンド」(49ページ)を選んでいるときは、ナイトリスニングモード・テレビ音量一定モードは選べません。

スリープタイマーを使用する

一定時間が経過すると、自動的に電源がスタンバイ状態になるように設定します。本機で音声を聴きながらおやすみになりたい場合などに便利です。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

リモコンがYSPモードに切り替わります。

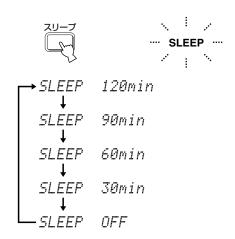
2 スリープキーを繰り返し押す

スタンバイ状態になるまでの時間が以下のように切り替わります。選択している間はSLEEPインジケーターが点滅します。

3 しばらくの間操作をしない

SLEEPインジケーターが点灯に変わり、スリープタイマーが設定されます。

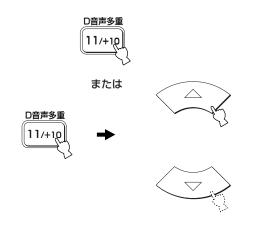
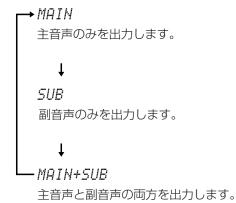
ヒント

リモコンの電源キーまたは本体のSTANDBY/ONキーを押すか、電源コードを抜くと、スリープタイマーは解除されます。

デジタル音声多重を切り替える

本機では、BS／地上デジタル放送の映画、ドラマなどで使われているAAC信号やHDDレコーダーに録画／録音されているドルビーデジタル信号の音声入力時に、どの音声を出力するか選択することができます。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

リモコンがYSPモードに切り替わります。

2 D音声多重キーを繰り返し押す、またはD音声多重キーを押してから△／▽キーを押す

ヒント

再生している映画やドラマなどに副音声が収録されていない場合、D音声多重キーを押しても、音声の切り替えはできません。

HDMIコントロール機能を使う

HDMIを使ったコントロール機能に対応しているテレビ(一部を除く)と本機をHDMI接続した場合、テレビのリモコンで本機の以下の機能を操作することができます。
－電源のオン／オフ(テレビ連動)
－音量の調節(上／下、消音)
－音声を出力する機器の切り替え(テレビ⇔本機)

HDMIを使ったコントロール機能に対応している機器の例として、パナソニック製ビエラリンク対応テレビ、HDD／DVDレコーダー、ブルーレイレコーダーや、東芝製レグザリンク対応テレビ、日立製作所製Wooo Link対応テレビ、HDD／DVDレコーダーなどがあります。
HDMIコントロール機能を正常に動作させるためには、HDMI接続しているテレビ、DVDレコーダー、ブルーレイレコーダーなどは同一のメーカーのものを使用することをおすすめします。

ヒント

HDMIを使ったコントロール機能に対応しているDVDレコーダー／ブルーレイレコーダー(一部を除く)をHDMI接続している場合は、それらの機器も連動して操作することができます。詳しくは、DVDレコーダー／ブルーレイレコーダーの取扱説明書をご参照ください。

1 HDMIを使ったコントロール機能に対応しているテレビと本機をHDMI接続する

ヒント

HDMIやHDMI接続について詳しくは、「HDMIについて」(20ページ)、および「HDMI端子を使って接続する」(22ページ)をご参照ください。テレビの取扱説明書では、AVアンプとの接続方法をご参照ください。

2 HDMI接続しているすべての機器の電源をオンにする

外部機器の操作について詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

3 HDMI接続しているすべての機器の設定を確認し、コントロール機能を有効にする

外部機器の設定について詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご参照ください。
手順1～3までは、一度操作すれば二回目以降は必要ありません。

4 テレビの電源を一度オフにし、再びオンにする

5 テレビの入力を、本機に接続した入力([HDMI]など)に切り替える

6 本機の入力を、DVDレコーダーまたはブルーレイレコーダーに切り替えて、レコーダーの画像が正しく映るかを確認する

7 テレビのリモコンで、本機の電源オン／オフや音量の調節、音声出力機器の切り替えをする

ヒント

・本機が動作しない場合は、テレビの設定で、HDMIを使ったコントロール機能が有効になっているか(テレビの取扱説明書参照)ご確認ください。
・HDMI以外の音声を再生しているときには、テレビのリモコンを操作してテレビの電源をオフにしても、本機の電源はオフになりません。そのまま再生を楽しむことができます。

本機を詳細に設定する

自動設定で調節されたサラウンドサウンドをお好みに合わせて変更したり、その他の各種設定を行うことができます。

詳細設定メニュー一覧

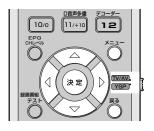
詳細設定を行うことで、本機の性能をより引き出してお使いいただくことができます。自動設定で十分にリアルサラウンドサウンドをお楽しみいただくことができますが、さらに高精度で高品質のサラウンドサウンドを追求するには、詳細設定におすすみください。詳細設定は、以下のように用途、機能別に4つのカテゴリーに分類されています。

ヒント

自動設定されたデータはメモリーに保存することができます(40ページ)。リスニングルームの状況に合わせてそれぞれのデータを保存し、ご使用の際に設定を切り替えると便利です。

メニュー	サブメニュー	内容	ページ
サウンド設定	トーンコントロール	高音域と低音域の出力レベルを調節します。	67
	サブウーファー設定	サブウーファーに関する設定をします。	67
	消音レベル	消音にしたときの音量を設定します。	68
	映像と音声のタイミング調整	音声出力のタイミングが映像と一致するよう調節します。	68
	DD/DTS ダイナミックレンジ圧縮	ダイナミックレンジの設定をします。	69
	TruBass	SRS TruBassを設定します。	69
ビーム設定	設置視聴環境	リスニングルームでの本機の位置や視聴位置を設定します。	63
	ビーム調整	ビームの指向性に関する設定をします。	64
	Lch/Rch位置調整	フロント左右チャンネルの定位を調節します。	66
入力設定	入力信号デコードモード	電源をオンにしたときの入力モードを設定します。	70
	入力レベル調整	端子ごとに入力レベルを設定します。	70
	HDMI設定	HDMI信号に関する設定をします。	70
表示設定	本体表示設定	フロントディスプレイ表示を設定します。	73
	メニュー画面設定	テレビ画面に表示される本機のメニューに関する設定をします。	73

詳細設定メニューの操作手順

詳細設定メニューの操作について説明します。メニューの各項目の詳細については、63ページ～73ページをご参照ください。

ヒント

メニューを操作中にカーソルキーの操作ができなくなった場合は、TV/AV/YSPスイッチがTV/AV側に設定されていないか確認してください。
メニューを操作するには、YSP側にスライドさせてください。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

リモコンがYSPモードに切り替わります。

2 メニューを押す

テレビ画面にメニューが表示されます。

3 △ / ▽ キーを押して、詳細設定を選択し、決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。

・詳細設定

→ 1) サウンド設定
2) ビーム設定
3) 入力設定
4) 表示設定

[▲] / [▼] ：選択
[決定] ：決定

4 △ / ▽ キーを押して、設定したい項目があるメニューを選択する

5 決定キーを押す

選択したメニュー内の項目が表示されます。

表示例：手順4でビーム設定を選んだ場合

2) ビーム設定

→ A) 設置視聴環境
B) ビーム調整
C) Lch/Rch位置調整

[▲] / [▼] ：項目選択
[決定] ：決定

6 △ / ▽ キーを押して、設定したい項目を選ぶ

7 決定キーを押す

選んだ項目の設定モードに入り、現在の設定が表示されます。
項目によっては、△ / ▽キーでサブメニューを選びます。

表示例

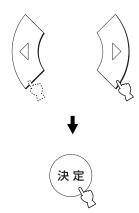
A) 設置視聴環境　1/3

→ 本体設置位置・・・・・壁置き

[▲] ／ [▼] ：項目選択　[◀] ／ [▶] ：調整
[決定] ：終了

項目によっては

8 ◁ / ▷ キーを押して、設定を調節、変更する

設定を確定するには、決定キーを押します。前の表示に戻るには、戻るキーを押します。

9 メニューキーを押して、設定を終了する

テレビ画面からメニューが消えます。

メニュー

ヒント

設定結果をメモリーに保存したり、そのデータをお部屋の状況に応じて呼び出したい場合は「メモリー機能を使用する」(40ページ)をご参照ください。

ビームを設定する

本機から出力されているビームに関するさまざまな設定を行います。

ヒント

各チャンネルのビームの音量レベルは、「音のバランスを調節する」(74ページ)で調節できます。

(メニュー→詳細設定→ビーム設定)

2) ビーム設定

→ A) 設置視聴環境
B) ビーム調整
C) Lch/Rch位置調整

[▲] / [▼] : 項目選択
[決定] : 決定

設置環境の設定により、ビームを調節する(設置視聴環境)

リスニングルームでの本機の位置や、本機から視聴位置までの距離を設定します。

「設置視聴環境」の各項目の値を変更するたびに「ビーム調整」の項目で、設定が自動的に適切な値へ変更されます。

ご注意

「設置視聴環境」の設定を変更すると、自動設定で調節されたビームに関するデータが失われます。自動設定で調節されたビームのデータを生かした状態で、さらに調節を加えたい場合は「ビームの角度や長さを設定する(ビーム調整)」から設定を行ってください。

1 設置視聴環境 1/3の「本体設置位置」を設定する

本機の設置状態を設定します。

A) 設置視聴環境 1/3

→ 本体設置位置・・・・・壁置き

[▲] / [▼] : 項目選択 [◀] / [▶] : 調整
[決定] : 終了

選択項目:壁置き、コーナー置き
初期設定:壁置き

「壁置き」

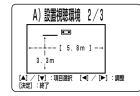
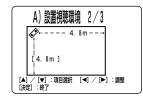
壁と並行に設置

「コーナー置き」

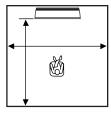
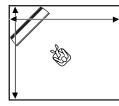
部屋のコーナーに設置

2 設置視聴環境 2/3を設定する

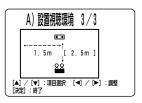
リスニングルームの長さと幅を設定します。

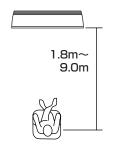
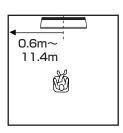
「壁置き」の場合

「コーナー置き」の場合

可変範囲:2.0m〜12.0m

「本体設置位置」を「壁置き」に設定した場合は、リスニングルームの幅と本機から後方までの長さを設定します。

「コーナー置き」に設定した場合は、視聴位置左側前方の壁の長さと、右側前方の壁の長さを設定します。

3 設置視聴環境 3／3を設定する

本機前面から視聴位置までの距離や、本機の中心から左側の壁までの距離を設定します。

「壁置き」の場合

「コーナー置き」の場合

本機から視聴位置までの可変範囲：
1.8m〜9.0m
本機から左側の壁までの可変範囲：
0.6m〜11.4m

「壁置き」の場合のみ

ビームの水平角度・経路長・焦点距離・高音レベルを個別に設定する（ビーム調整）

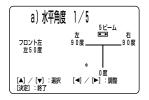
ビームの指向性に関する設定を行います。

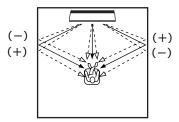
ヒント

・自動設定の実行や、詳細設定の「設置視聴環境」の設定により、各項目の初期設定値は自動的に設定されています（「焦点距離」の「センター」は除く）。

・ビームモード（47〜49ページ、53ページ、54ページ）の設定により、設定できないチャンネルは「——」と表示されます。

1 「水平角度」を設定する

自動的に出力されるテスト音を聴きながら、ビームの水平方向の角度をチャンネルごとに調節します。

左方向に調節すると音が出力される方向は左方向へ移動し、右方向に調節すると右方向へ移動します。これによってビームの経路が移動し、ビームの方向を最適化することができます。

可変範囲：左90度〜右90度

2 「ビーム経路長」を設定する

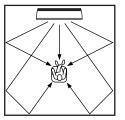
各チャンネルのビームが、出力されてから壁にはね返って視聴位置に到達するまでの距離を設定します。この設定により、音の遅延量が補正され、各チャンネルの音が同じタイミングで視聴位置に届くようになります。

ヒント

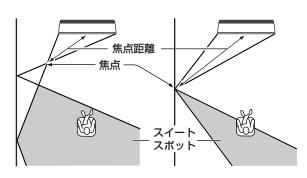
「ビーム経路長」は「水平角度」を調節した場合にのみ設定してください。自動設定（34ページ）を行った後、「ビーム経路長」の設定のみを変更すると、音が届くタイミングがずれてしまいます。

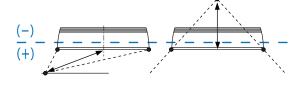
可変範囲：0.3m〜24.0m

右図では、矢印の長さがビームの経路長を表しています。

例

3「焦点距離」を設定する

音がよく聞こえる範囲(スイートスポット)の広さを調節します。

本機は、下図のように音が一旦焦点を結び、その地点からまた広がるよう設定されています。数値を小さく(−(マイナス)方向に)設定するほどスイートスポットは広くなり、数値を大きく(+(プラス)方向に)設定するほどスイートスポットは狭くなります。

センターチャンネルについては、初期設定(−0.3m)での使用をおすすめします。

フロント左/右
可変範囲：−1.0m〜+13.0m
センター
可変範囲：−1.0m〜+13.0m
初期設定：−0.3m
サラウンド左/右
可変範囲：−1.0m〜+13.0m

ヒント

自動設定(34ページ)および「設置視聴環境」(63ページ)の設定では、スイートスポットが本機の幅より少し広くなるよう自動的に調節されます。

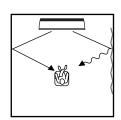
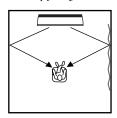
4「高音レベル」を設定する

高音域の指向性を各チャンネルごとに調節します。

カーテンなどに音が吸収され、ビームの反射が小さくなってしまうときに、高音域のレベルを上げることにより、それを補正します。

数値が上がるほど、ビームの反射が大きくなります。

フロント左/右
可変範囲：−12.0dB〜+12.0dB
センター
可変範囲：−12.0dB〜+12.0dB
初期設定：0dB
サラウンド左/右
可変範囲：−12.0dB〜+12.0dB
初期設定：+3.0dB(5ビーム時)
　　　　　0dB(ST+3ビーム時)

調節しないとき

フロント右チャンネルの
レベルを上げたときの
イメージ

フロント左／右チャンネルのバランスを調節する（Lch/Rch位置調整）

フロント左／右チャンネルの音声が聞こえてくる方向が、センターに近い位置になるように調節します。

ヒント

各チャンネルのビームの音量レベルは、「音のバランスを調節する」（74ページ）で調節できます。

視聴位置がリスニングルームの中心から極端にずれている場合など、左右で音の聞こえてくる方向が不自然な場合にご利用ください。

ビームモードを「3ビーム」または「5ビーム」に設定しているときのみ調節することができます。

「オン」を選択すると「1 「左」を設定する」および「2 「右」を選択する」で音の方向を調節できます。

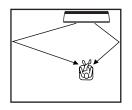
選択項目：オフ、オン
初期設定：オフ

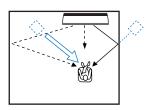
表示例：
オンに設定した場合

1 「左」を設定する

左側から聞こえてくる音の方向を調節します。

設定値（%）が上がるほどセンターから音が聞こえるようになります。

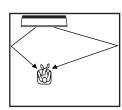
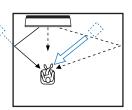
可変範囲：0%～95%
初期設定：0%

調節しないとき

フロント左チャンネルを
調節したときのイメージ

2 「右」を設定する

右側から聞こえてくる音の方向を調節します。

設定値（%）が上がるほどセンターから音が聞こえるようになります。

可変範囲：0%～95%
初期設定：0%

調節しないとき

フロント右チャンネルを
調節したときのイメージ

音声出力を設定する

音質や音色の調節など、音声の出力に関する設定をします。

（メニュー→詳細設定→サウンド設定）

1) サウンド設定
→ A) トーンコントロール
B) サブウーファー設定
C) 消音レベル
D) 映像と音声のタイミング調整
E) DD/DTS ダイナミックレンジ圧縮
F) TruBass
[▲] / [▼] : 選択
[決定] : 決定

高音域と低音域の出力レベルを設定する（トーンコントロール）

高音域と低音域の出力レベルを調節します。

「高音」を調節する

高音域の音色を調節します。

可変範囲：－12.0dB～＋12.0dB
初期設定：0dB

「低音」を調節する

低音域の音色を調節します。

可変範囲：－12.0dB～＋12.0dB
初期設定：0dB

サブウーファーの設定をする

サブウーファーについて、さまざまな設定をします。

「バス出力」を設定する

サブウーファーと本機のどちらから低音成分を出力するかを設定します。

選択項目：サブウーファー、フロント
初期設定：フロント

「サブウーファー」：本機に接続したサブウーファーから低音成分を出力します。

「フロント」：本機から低音成分を出力します。

「クロスオーバー」を設定する

「バス出力」を「サブウーファー」に設定しているときに、サブウーファーに出力する低音成分の周波数の上限を設定します。設定した周波数以下の低音成分がサブウーファーに出力されます。

選択項目：100Hz、120Hz、150Hz
初期設定：120Hz

「LFE レベル」を設定する

ドルビーデジタル、DTS、およびAAC信号に含まれているLFE（低域効果音）の音量を調節します。

可変範囲：－20dB～0dB
初期設定：0dB

「距離」を設定する

サブウーファーから視聴位置までの距離を設定します。

可変範囲：0.3m～15.0m
初期設定：3.0m

消音のレベルを設定する

リモコンの消音キーを押して消音するときに下げる音量を、2段階から選択します。

C）消音レベル
▶消音　　－20dB
[◀]／[▶]：選択
[決定]：終了

選択項目：消音、－20dB
初期設定：消音

「消音」：完全に消音し、無音にする場合に選択します。

「－20dB」：いま聴いている音量よりも、20dB下げて再生する場合に選択します。

映像と音声のタイミングを調節する

音声出力のタイミングが映像と一致するように補正します。

デジタル処理された映像が、音声よりも遅れて出力されることがあります。

この出力タイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します。設定値が大きくなるほど音声が遅れて出力されます。

プラズマテレビや液晶テレビをご使用の場合は30msec～50msec、ブラウン管式テレビをご使用の場合は0msecの設定をおすすめします。

可変範囲：0msec～160msec
初期設定：0msec

ダイナミックレンジ圧縮を設定する

ドルビーデジタル、およびDTS再生時のダイナミックレンジを選びます。

E) DD/DTS ダイナミックレンジ圧縮
圧縮最大　圧縮標準　►圧縮なし
[◄] / [►]：選択
[決定]：終了

選択項目：圧縮最大、圧縮標準、圧縮なし
初期設定：圧縮なし

「圧縮最大」：小音量でも小さな音が明瞭に聴こえる、夜間に音声を楽しむのに適したダイナミックレンジです。

「圧縮標準」：一般的な家庭用として使用するダイナミックレンジです。

「圧縮なし」：小さな音から大きな音まで、ソースの持つサウンドを最大に生かすダイナミックレンジです。

ダイナミックレンジとは？
どれだけ小さな音から、どれだけ大きな音までを雑音や歪みなく再生できるかを表したものです。

TruBassを設定する

サブウーファーがない場合でも低音域の信号を効果的に再生できる、TruBassのオン／オフを切り替えます。

TruBassの低音は壁を通り抜けにくいので、近隣への低音漏れを低減することができます。

ヒント

ビームモードが「マイビーム」(54ページ)または「マイサラウンド」(49ページ)に設定されているときには、TruBassの機能は無効です。

F) TruBass
オフ　►オン
[◄] / [►]：選択
[決定]：終了

選択項目：オン、オフ
初期設定：オン

「オン」：低音を効果的に再生します。フロントパネルディスプレイにSRS TruBassインジケーターが点灯します。

「オフ」：入力信号をそのまま再生します。

本機について
設置・接続する
準備する
設定する
基本操作
応用操作
付録

入力の設定を変更する

入力信号に関する設定を行います。

（メニュー→詳細設定→入力設定）

3）入力設定
→ A）入力信号デコードモード
B）入力レベル調整
C）HDMI設定
[▲]／[▼]：項目選択
[決定]：決定

電源をオンにしたときに適用する入力モードを設定する（入力信号デコードモード）

本機の電源をオンにしたときに使用する音声信号の入力モードを指定することができます。本機が自動的に適切な音声入力信号を選択するか、前回選択していた音声入力信号を今回もそのまま適用するかのどちらかを設定します。

ヒント

音声信号の種類については「入力する音声信号を切り替える（入力モード切り替え）」（76ページ）をご参照ください。

A）入力信号デコードモード
▶自動選択　前回設定
[◀]／[▶]：選択
[決定]：終了

選択項目：自動選択、前回設定
初期設定：自動選択

「自動選択」：入力された音声信号を識別して、自動的に適切な入力選択をします。

「前回設定」：前回電源を切ったときに選択していた音声入力信号を再生します。設定とは異なった音声信号が入力された場合は、音声は出力されません。

各端子の入力レベルを調節する（入力レベル調整）

端子ごとに入力レベルを設定して、ソースにより異なる音量のばらつきを調節します。

ヒント

本機と外部機器との接続状況によって、メニュー項目が変わります。

表示例

メニューに表示されたそれぞれの端子について、入力レベルを調節します。

可変範囲: －6.0dB～0dB
初期設定: －3.0dB

HDMI信号に関する設定をする（HDMI設定）

HDMI入力端子から入力された信号の設定をしたり、HDMI映像信号の情報を表示します。

「サポート音声」を設定する

HDMI IN端子から入力した音声信号を、本機で再生するか、本機のHDMI OUT端子に接続した機器（テレビなど）で再生するかを設定します。

ヒント

- 本機のHDMI IN端子に入力したHDMI映像信号は、常に本機のHDMI OUT端子へ出力されます。
- 「サポート音声」は、「HDMIコントロール」が「オフ」のときのみ有効です。

a) サポート音声
►YSP-600　　それ以外
[◀] / [▶] ：選択
[決定] ：終了

選択項目：YSP-600、それ以外
初期設定：YSP-600

「YSP-600」：入力された音声信号を本機で再生します。HDMI IN端子に接続したHDMI機器から入力した信号は、HDMI OUT端子に伝送しません。

「それ以外」：HDMI OUT端子に接続した機器で再生します。

「音声選択」を設定する

HDMI音声信号出力のオン／オフを切り替えます。再生しているマルチチャンネル音声ソースが2チャンネル音声でしか出力されない再生機器の場合、本機と再生機器をHDMI に加えて光または同軸デジタル接続し、「音声選択」を「オフ」に設定してください。マルチチャンネル音声信号はデジタル端子を経由し、本機からマルチチャンネルで出力されます。

b) 音声選択
→ HDMI 1 AUX ・・・・オン
HDMI 2 DVD ・・・・オン
[▲] / [▼] ：項目選択　[◀] / [▶] ：選択
[決定] ：終了

選択項目：オン、オフ
初期設定：オン

「オン」：HDMI IN端子から入力している音声信号を出力します。再生機器とHDMI接続していない場合は、デジタル信号の音声を出力します。

「オフ」：HDMI IN端子から入力している音声信号を出力しません。デジタル信号の音声を出力します。

ヒント

「音声選択」の設定に関わらず、映像信号は常にHDMI信号を出力します。

「映像信号の確認」

HDMI映像入出力信号の解像度やエラーメッセージを表示します。

c) 映像信号の確認
→HDMI 解像度・・・480p
HDMI エラー・・－－－－
[▲] / [▼] ：項目選択
[決定] ：終了

「HDMI 解像度」：HDMI入出力映像信号の解像度を表します。

「HDMI エラー」：HDMI信号に関するエラーを表示します。

表示	内容
デバイスエラー	制限台数を超えるHDMI機器が接続されています。接続されている機器を少なくしてください。
HDCPエラー	HDCPの認証に失敗しました。接続している機器がHDCPに対応しているかご確認ください。

「HDMIコントロール」を設定する

本機とHDMI接続した機器のリモコンで本機を操作できる、HDMIコントロール機能のオン／オフを切り替えます。HDMIコントロール機能について詳しくは、「HDMIコントロール機能を使う」(59ページ)をご参照ください。

d) HDMIコントロール

オフ ▶オン

[◀] ／ [▶]：選択
[決定]：終了

選択項目：オフ、オン
初期設定：オン

「オフ」：HDMIコントロール機能を無効にします。

「オン」：HDMIコントロール機能を有効にします。本機の待機時消費電力が増加します。

表示の設定を変更する

本体のフロントパネルディスプレイ表示や、テレビ画面に表示されるメニューについて設定します。

（メニュー→詳細設定→表示設定）

4）表示設定
→ A）本体表示設定
B）メニュー画面設定
［▲］／［▼］：項目選択
［決定］：決定

フロントパネルディスプレイ表示を設定する（本体表示設定）

フロントパネルディスプレイ表示を設定します。

A）本体表示設定
→ 操作時の明るさ・・・・・・0
非操作時の明るさ・・・・・0
［▲］／［▼］：項目選択　［◀］／［▶］：選択
［決定］：終了

「操作時の明るさ」を設定する

本体のキーまたはリモコンキーでなんらかの操作をすると、フロントパネルディスプレイの表示が一定時間明るくなります。そのときの明るさを調節します。

選択項目：－2、－1、0
初期設定：0

「非操作時の明るさ」を設定する

一定時間なにも操作しないと、フロントパネルディスプレイは暗く表示されます。

そのときの明るさを調節します。「操作時の明るさ」の設定値を基準にさらに3段階暗くすることができます。

選択項目：非表示、－3～－1、0
初期設定：0

メニューの表示を設定する（メニュー画面設定）

テレビ画面に表示される本機のメニューに関して設定します。

B）メニュー画面設定
上下位置・・・・・・0
［◀］／［▶］：選択
［決定］：終了

「上下位置」を設定する

メニューを表示する位置を調節します。－（マイナス）方向にすると表示位置が上に移動し、＋（プラス）方向にすると下に移動します。

可変範囲：－5～＋5
初期設定：0

音のバランスを調節する

各チャンネルの音量のバランスを調節します。各チャンネルの音量バランスを整えることによって、自然なサラウンドサウンドになります。

テスト音を使って調節する

各チャンネルからテスト音を出力することによって、チャンネルごとの音の大きさの違いを聴きくらべ、バランスを調節することができます。テスト音を使っての調節は、「5ビーム」または「ST+3ビーム」、「3ビーム」を選択しているときに行えます(47ページ)。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

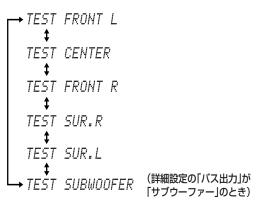
リモコンがYSPモードに切り替わります。

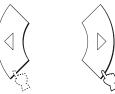
2 テストキーを押す

フロントパネルディスプレイに「TEST FRONT L」と表示され、フロント左チャンネルからテスト音が出力されます。

TEST FRONT L　VOL

3 △/▽キーを押して調節したいチャンネルを選択する

フロントパネルディスプレイの表示が以下のように切り替わります。

4 ◁/▷キーを押して音量レベルを調節する

音量調節レベルは－10.0dB～＋10.0dBです。

設定中に音量を上げた場合は、次のステップにすすむ前に必ず音量を確認し、上がりすぎている場合は音量を下げてください。

5 テストキーを押して、設定を終了する

ヒント

サブウーファーを接続し、「「バス出力」を設定する」(67ページ)で「サブウーファー」を選択すると、「SUBWOOFER」の項目も設定できます。

ご注意

本機の自動設定(34ページ)を行わないと、テストトーンを選ぶことはできません。

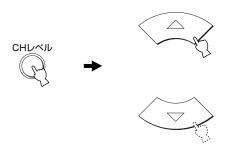
再生しながら調節する

DVDなどを再生しながら、各チャンネルの音量バランスを調節することができます。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

リモコンがYSPモードに切り替わります。

2 CHレベルキーを繰り返し押す、またはCHレベルキーを押してから△/▽キーを押して、調節したいチャンネルを選択する

フロントパネルディスプレイの表示が以下のように切り替わります。

3 ◁/▷キーを押して、音量レベルを調節する

音量レベル調節範囲は−10.0dB～+10.0dBです。

4 しばらくの間操作をしない

設定を終了します。

ヒント

- サブウーファーを接続し、「「バス出力」を設定する」(67ページ)で「サブウーファー」を選択すると、「SWFR」の項目も設定できます。
- 選択しているビームモードにより、調節できるチャンネルは変化します。調節できないチャンネルは「−−」と表示されます。

入力する音声信号を切り替える（入力モード切り替え）

テレビやDVDプレーヤーなどの外部機器から本機に入力する音声信号を選択します。

「AUTO」（初期設定）のままでほとんどの音声信号を再生することができますが、必要に応じてデジタル、アナログ信号の優先順位を選んだり、DTSまたはAACに入力信号を固定したりすることができます。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

リモコンがYSPモードに切り替わります。

2 入力選択キーを押して、入力する機器を選択する

ご注意

ビデオはアナログ入力に固定されています。入力モードを変更することはできません。

3 入力モードキーを押す

フロントパネルディスプレイに現在の入力モードが表示されます。

4 入力モードキーを繰り返し押す

入力選択している機器に応じて、フロントパネルディスプレイに以下のように表示されます。

AUTO

入力された音声信号を識別して、自動的に適切な入力選択とデコードをします。

デジタルとアナログの両方で接続したテレビから、両方の信号が入力された場合には、デジタル信号を優先して選択します。

通常はこのモードをご使用ください。

DTS

DTS信号のみを再生します。

DTS信号を入力している場合、AUTOに設定しているときよりも安定した再生が可能です。

DTS-CDまたはDTS-LDを再生するときにおすすめします。

AAC

AAC信号のみを再生します。

AAC信号を入力している場合、AUTOに設定しているときよりも安定した再生が可能です。

BS/地上デジタル放送やD-VHSデッキなどからAAC信号を入力するときにおすすめします。

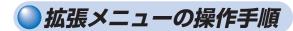
ANALOG

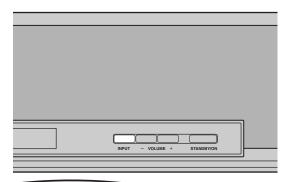
デジタル信号とアナログ信号が同時に入力されている場合でも、アナログ信号を再生します。

ヒント

「電源をオンにしたときに適用する入力モードを設定する(入力信号デコードモード)」(70ページ)で、本機の電源をオンにしたときに使用する入力モードを「自動選択」(AUTO)にするか、前回使用していた入力モードにするかを指定することができます。

拡張メニューを設定する

各種設定を保護したり、工場出荷状態に戻したりします。

拡張メニューの操作手順

拡張メニューの操作について説明します。各メニューの詳細については、79、80ページをご参照ください。

1 本機の電源をオフ(スタンバイ)にする

2 本体のINPUTキーを押しながら、リモコンの電源キーを押して電源を入れる

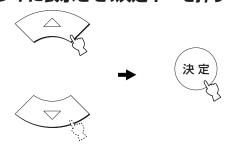
フロントパネルディスプレイに「MEMORY PROTECT」と表示されます。

押しながら

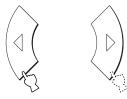
3 INPUTキーをはなす

4 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

リモコンがYSPモードに切り替わります。

5 △/▽キーを押して、設定したいメニューをフロントパネルディスプレイに表示させ、決定キーを押す

表示例：「DEMO MODE」を選んだ場合

DEMO MODE

6 ◁/▷キーを押して、設定したい項目/指定したい値をフロントパネルディスプレイに表示させる

表示例：手順5で「DEMO MODE」を選んだ場合

DEMO: OFF ↔ DEMO: ON

7 リモコンの電源キーを押して、電源をスタンバイにする

再度電源キーを押して電源を入れると、設定されます。

ヒント

拡張メニューの設定を変更するには、本体の電源を切り、改めて拡張メニュー設定の操作を行います。

メニューの設定内容を保護する

メモリー保存した設定の内容を変更できないようにします。「拡張メニューの操作手順」(78ページ)の手順5で「MEMORY PROTECT」を表示させ、手順6で「PROTECT: ON」(設定内容を保護したい場合)を選択してください。

MEMORY PROTECT

選択項目：
PROTECT: OFF、PROTECT: ON

音量の最大値を設定する

本機の音量を、指定した値より大きくできないように設定します。「拡張メニューの操作手順」(78ページ)の手順5で「MAX VOLUME SET」を表示させ、手順6で値を設定してください。

MAX VOLUME SET

調整範囲：
MIN(最小)、01～99、MAX(最大)

電源を入れたときの音量を固定する

本機の電源をオンにしたときの音量を、常に指定した値になるように設定します。「拡張メニューの操作手順」(78ページ)の手順5で「TURN ON VOLUME」を表示させ、手順6で値を設定してください。

TURN ON VOLUME

調整範囲：
OFF、01～99、MAX(最大)

デモモードで再生する

デモモードでは、ビーム化された音声を1チャンネルで出力し、水平に動作(スイープ)させます。これにより、本機からビームがどのように出力されているか体感できます。「拡張メニューの操作手順」(78ページ)の手順5で「DEMO MODE」を表示させ、手順6で「DEMO: ON」(デモモードで再生したい場合)を選択してください。

DEMO MODE

選択項目：
DEMO: OFF、DEMO: ON

音声をスイープさせるには

決定キーを押します。

スイープを停止させるには

もう一度決定キーを押します。

フロントパネルのINPUTキー操作を無効にする

フロントパネルのINPUTキーを押しても、入力が変わらないようにします。「拡張メニューの操作手順」(78ページ)の手順5で「PANEL INP. KEY」を表示させ、手順6で「P.INPUT: OFF」(フロントパネルのINPUTキー操作を無効にしたい場合)を選択してください。

PANEL INP. KEY

選択項目：
P.INPUT:ON、P.INPUT:OFF

フロントパネルキー操作を無効にする

拡張メニュー以外の操作をフロントパネルキーでできないようにします。「拡張メニューの操作手順」(78ページ)の手順5で「F.PANEL KEY」を表示させ、手順6で「F.PANEL: OFF」(フロントパネルキー操作を無効にしたい場合)を選択してください。

F.PANEL KEY

VOL

選択項目：
F.PANEL:ON、F.PANEL:OFF

無効にしたフロントパネルキーをONにするには、電源をリモコンで切り、改めて設定し直してください。

設定した内容を初期化する

各種設定をすべて工場出荷状態に戻します。「拡張メニューの操作手順」(78ページ)の手順5で「FACTORY PRESET」を表示させ、手順6で「PRESET: RESET」(工場出荷時の状態に戻したい場合)を選択してください。

FACTORY PRESET

VOL

選択項目：
PRESET:CANCEL、PRESET: RESET

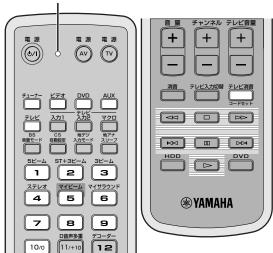
本機のリモコンで外部機器を操作する

外部機器のリモコンコード(88ページ)を登録すると、本機のリモコンを使用して本機に接続したテレビやDVD、ビデオデッキなどの外部機器を操作することができます。

ご注意

- 外部機器の機種によっては、本機のリモコンで一部の機能を操作できない場合があります。また、全く操作できない場合もあります。このような場合は各機器に付属しているリモコンをご使用ください。
- リモコンの電池が切れると、約2分後にリモコンの設定内容が消去されます。この場合、必要に応じてリモコンコードを再登録してください。また、電池が切れてから2分に満たない場合でも、電池の交換中にリモコンのキーを押すと、設定が消えてしまうことがありますので、ご注意ください。

リモコンコードを登録する

入力選択キーのテレビキーにはテレビの、DVDキーにはDVDの、チューナーキーには衛星放送／ケーブルTVチューナーの、ビデオキーにはビデオデッキの、AUXキーにはその他の機器のリモコンコードを登録することができます。

1 88ページのリモコンコード一覧からリモコンコードを設定したい外部機器のコードを控える

複数のコードがある場合は、1つずつ試してください。

2 コードセットキーを押しながら、リモコンコードを設定したい外部機器の入力選択キーを押す

コードセットキーを押したまま、手順3へすすみます。リモコン送信表示が2度点滅します。

設定例(ヤマハ製DVD)

コードセットキーは手順3の操作終了まで押し続けます。

3 リモコン送信表示の点滅が点灯に変わったら、コードセットキーを押したまま、手順1で控えたコードを数字キーで入力する

登録に成功すると、リモコン送信表示が消灯します。

ここでコードセットキーを放します。

正常に登録できなかった場合、リモコン送信表示が点滅します。この場合、コードセットキーを放し、手順1からやり直してください。

設定例（ヤマハ製DVD）

押したまま

ご注意

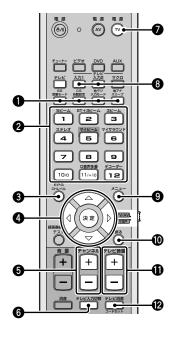
リモコンコードの入力が遅れると登録できないことがあります。登録できなかった場合は、コードセットキーを放し、もう一度手順2からやり直してください。

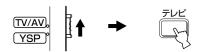
4 「設定した機器を操作する」（83ページ）を参照し、登録した外部機器のいずれかの操作を実行する

確認には、最初に外部機器の選択を行い、電源のオン、オフなどを試してみましょう。

外部機器が正しく機能すれば登録は完了です。正しく機能しない場合はリモコンコードが合致していない可能性があります。本機に接続している外部機器のリモコンコード（88ページ）を確認後、手順1を再度実行してください。

設定した機器を操作する

テレビを操作する

HDMIコントロール機能を使用している場合、本機とHDMI接続したテレビを本機のリモコンで操作すると、本機の電源オン／スタンバイや音量調節など、一部の機能が動作することがあります。HDMI機能に対応しているDVDレコーダーやブルーレイレコーダーを本機とHDMI接続している場合は、それらの機器の電源も動作することがあります。

TV/AV/YSPスイッチをTV/AV側にスライドさせてから、テレビキーを押して入力をテレビに切り替えます。

❶ **放送メディア選択キー**：デジタル放送対応テレビで、放送メディア(BS放送／CS放送／地上デジタル放送／地上アナログ放送)を選択します。

❷ **数字キー**：チャンネルを直接指定します。

ご注意

お使いのテレビにより、放送メディアが切り替わることがあります。

❸ **EPGキー**：デジタル放送対応テレビでデジタル放送受信時に、電子番組表(EPG)を表示します。

❹ **カーソル(△/▽/◁/▷)キー/決定キー**：メニューを選択・決定します。

❺ **チャンネル(+/−)キー**：テレビのチャンネルを切り替えます。

❻ **テレビ入力切替キー**：テレビの入力を切り替えます。

❼ **電源(TV)キー**：テレビの電源をオンにします。

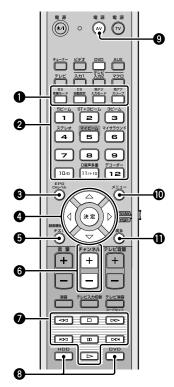
❽ **テレビ入力1／2キー**：テレビの入力を直接指定します。

❾ **メニューキー**：メニューを表示または終了します。

❿ **戻るキー**：前のメニューに戻ります。

⓫ **テレビ音量(+/−)キー**：テレビの音量を調節します。

⓬ **テレビ消音キー**：テレビの音量を一時的に消音します。

DVDプレーヤー／レコーダーを操作する

TV/AV/YSPスイッチをTV/AV側にスライドさせてから、DVDキーを押して入力をDVDに切り替えます。

❶ **放送メディア選択キー**：デジタル放送対応DVDで、放送メディア(BS放送／CS放送／地上デジタル放送／地上アナログ放送)を選択します。

❷ **数字キー**：数字を入力します。

❸ **EPGキー**：デジタル放送対応DVDでデジタル放送受信時に、電子番組表(EPG)を表示します。

❹ **カーソル(△/▽/◁/▷)キー/決定キー**：DVDメニューを選択します。

❺ **録画番組キー**：デジタル放送対応のDVDレコーダーに録画したデジタル放送番組を表示します。

❻ **チャンネル(+/−)キー**：DVDのチャンネルを切り替えます。

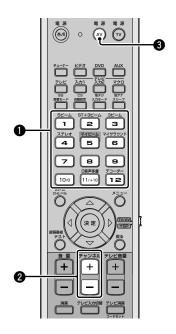
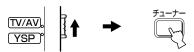
❼ **DVD、ビデオデッキ操作キー**：再生、停止などの操作をします。

❽ **ディスク選択キー**：HDD内蔵DVDレコーダーのディスク(HDD／DVD)を選択します。

❾ **電源(AV)キー**：DVDの電源をオンにします。

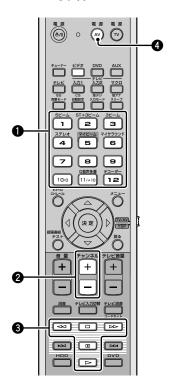
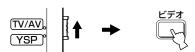
❿ **メニューキー**：接続しているDVDの"メニュー"キーと同じ動作をします。

⓫ **戻るキー**：接続しているDVDの"戻る"キーと同じ動作をします。

衛星放送／ケーブルTVチューナーを操作する

TV/AV/YSPスイッチをTV/AV側にスライドさせてから、チューナーキーを押して入力をチューナーに切り替えます。

❶ **数字キー**：チャンネルを直接指定します。

❷ **チャンネル(+/−)キー**：チューナーのチャンネルを切り替えます。

❸ **電源(AV)キー**：チューナーの電源をオンにします。

ビデオデッキを操作する

TV/AV/YSPスイッチをTV/AV側にスライドさせてから、ビデオキーを押して入力をビデオデッキに切り替えます。

❶ **数字キー**：チャンネルを直接指定します。

❷ **チャンネル(+/−)キー**：ビデオデッキのチャンネルを切り替えます。

❸ **DVD、ビデオデッキ操作キー**：再生、停止などの操作をします。

❹ **電源(AV)キー**：ビデオデッキの電源をオンにします。

本機について
設置・接続する
準備する
設定する
基本操作
応用操作
付録

テレビマクロ機能を使用する

テレビマクロ機能とは、入力選択キーで入力機器を選ぶだけで、テレビの入力切替までを自動的に行うことができるようにする機能です。例えばDVDを再生する場合、通常は(1)テレビの入力を切り替える→(2)入力機器をDVDに切り替える・・・などの操作が必要です。マクロ機能を使うと、マクロキーのDVDキーを押すだけでこのような一連の操作を行うことができます。マクロ機能の設定中は、リモコンの赤外線送信部を常に本機およびテレビのリモコン受光窓に向けて操作してください。

ご注意

- テレビマクロの設定は、テレビのリモコンコードを登録(81ページ)したあとに行ってください。テレビマクロ設定後にテレビのリモコンコードが登録された場合、リモコンコード登録が無効になります。
- チューナー機能が搭載されていないテレビをご使用の場合は設定の方法が異なります(87ページ)。
- 設定の途中で、下のリモコン図で示されている以外のキーを押すと、設定が無効になります。
- 手順2または3で、キーを押す間隔が10秒を超えると、すべての操作が無効になります。その場合、手順1からやり直してください。

1 コードセットキーを押しながら、マクロを設定したい機器の入力選択キーを押す

コードセットキーを押したまま、手順2へすすみます。

設定例(DVD)

押しながら

2 コードセットキーを押したまま、テレビマクロキーを押す

押したまま

3 チャンネル+/−キー、または数字キーを押す

テレビ画面がチューナー画像に切り替わったことを確認します。

4 テレビ入力切替キーを押す

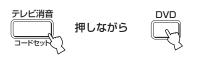
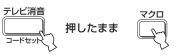
手順1で指定した機器の画像に切り替わるまで、キーを繰り返し押します。

5 決定キーを押して、マクロ設定を終了する

チューナー機能が搭載されていないテレビをご使用の場合

1 コードセットキーを押しながら、マクロを設定したい機器の入力選択キーを押す

コードセットキーを押したまま、手順2へすすみます。

設定例（DVD）

2 コードセットキーを押したまま、テレビマクロキーを押す

3 テレビ入力1キーを押す

テレビが入力1の画面に切り替わったことを確認します。

4 テレビ入力切替キーを押す

手順1で指定した機器の画像に切り替わるまで、キーを繰り返し押します。

5 決定キーを押して、マクロ設定を終了する

テレビマクロを実行するには

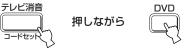
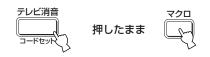
マクロを実行したい機器の入力選択キーを2秒以上押す

入力モードが切り替わるのと同時に、テレビの入力も切り替わります。

テレビマクロの設定を解除するには

1 コードセットキーを押しながら、マクロ設定を解除したい機器の入力選択キーを押す

コードセットキーを押したまま、手順2へすすみます。

解除例（DVD）

2 コードセットキーを押したまま、テレビマクロキーを押す

3 決定キーを押して、マクロ設定を解除する

リモコンコード一覧

下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。また、メーカーや機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器専用のリモコンをご利用ください。複数のリモコンコードが記載されている場合は、お使いの機器に一致するものが見つかるまで順番にお試しください。

テレビ(*BS／地上デジタル放送対応機種)

メーカー名	リモコンコード
アイワ	294 276 283 284
NEC	297 252 282
LG/GOLDSTAR	297 298 239 237
SAMSUNG	297 239 248 262 275
サンヨー	295 233 279 272 273 274 212
シャープ	208* 292 239 232 213
ソニー	209* 214* 263
DAEWOO	297 298 224 227 228
東芝	215* 292 226 267
パイオニア	268* 226 235 254 255
バイデザイン	201 202
パナソニック	211* 234 235 236 253 288
ビクター	286* 296 246 247
日立	206* 297 239 242 243 285
PHILIPS	298 225 205
富士通	290
フナイ	277 278
三菱	299* 297 259 287
ヤマハ	206* 299* 292 242 285 287 253

DVD(ブルーレイ、HD DVD)プレーヤー／レコーダー(*BS／地上デジタル放送対応機種)

メーカー名	リモコンコード
アイワ	648 649
オンキヨー	632 633 634
ケンウッド	628
SAMSUNG	642 612
シャープ	643* 691* 692* 696* 697* 698*
ソニー	644* 676* 677* 693* 694* 695*
DAEWOO	655
デノン	623 624 682
東芝	611* 621* 631* 665* 666* 667* 634 681
パイオニア	673* 674* 675* 685* 686* 687* 636 637 638 671
バイデザイン	678 679
パナソニック	623* 641* 651* 661* 668* 672* 682* 683* 684* 635
ビクター	643* 692* 627
日立	688* 689* 626
PHILIPS	699 647 659 669
フナイ	625
MARANTZ	699 659
三菱	629
ヤマハ	699 622 623 647 682

ビデオデッキ

メーカー名	リモコンコード
アイワ	396 397 398 329
NEC	392 394 344 383
LG/GOLDSTAR	396 388
Orion	327
ケンウッド	392 394 396
SAMSUNG	354 358 363 364 365 366
サンスイ	394
サンヨー	393 336 367
シチズン	396
シャープ	395 362 382
ソニー	368 379 372 373 374 375
DAEWOO	328 334 335
東芝	335 389
TEAC	392 394 397
パイオニア	325
パナソニック	325 328 355 378 384 385 386
ビクター	392 394 344 345 346 347
日立	325 333 349 342 343
フナイ	397
MARANTZ	392 394
三菱	399 344 348 359 353 352
ヤマハ	399 392 393 394

ケーブルテレビチューナー

メーカー名	リモコンコード
ソニー	756 757
パイオニア	747 748 785
パナソニック	744 745 746 747 783 784
日立	722
PHILIPS	763 764 765 766 767 768

BSデジタルチューナー

メーカー名	リモコンコード
ソニー	832 835
東芝	833 836
パナソニック	826 829
ビクター	822
日立	824
PHILIPS	825 843 844 845 846 847 848 849
ユニデン	825

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いてから、お買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

全般

電源を入れてもすぐに切れてしまう

原因	対策	参照ページ
電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードが正しくコンセントに接続されていることをご確認ください。	28
内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—

STANDBY/ONキーを押しても電源が入らない

原因	対策	参照ページ
電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードが正しくコンセントに接続されていることをご確認ください。	28
内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	コンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—

使用中に突然電源が切れる

原因	対策	参照ページ
機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って(1時間程度)、電源を入れ直してください。	—
スリープタイマーが作動した。	電源を入れてソースを再生し直してください。	—

音声が出ない

原因	対策	参照ページ
再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	19
再生したいソースが正しく選ばれていない。	INPUTキーや入力選択キーで、再生したいソースを正しく選んでください。	13、43
音量が小さい。	音量を大きくしてください。	46
消音されている。	リモコンの消音キーまたは音量+/−キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	46
サンプリング周波数が192kHzのPCMやMPEG2など、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。または再生機器の設定を変更してください。	—
詳細設定「サポート音声」を「それ以外」に設定している。	「YSP-600」に設定してください。	70、71

音声が突然出なくなる

原因	対策	参照ページ
消音された。	リモコンの消音キーまたは音量（＋/－）キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	46

有線放送などでエフェクトチャンネルの音がノイズになる

原因	対策	参照ページ
あらかじめソースにサラウンド効果がかかっている。	本機でサラウンド効果をかけないでください。	—

センターチャンネルから音声が出ない

原因	対策	参照ページ
センターチャンネルの音量が絞られている。	センターチャンネルの音量を調節してください。	74

センター、サラウンド左／右から音声が出ない

原因	対策	参照ページ
ステレオ再生している。	ビームモードキーで、「5ビーム」、「ST+3ビーム」、「3ビーム」のいずれかを選択して再生してください。	47

サラウンド左／右チャンネルから音声が出ない

原因	対策	参照ページ
サラウンド左／右チャンネルの音量が小さい。	サラウンド左／右チャンネルの音量を調節してください。	74

十分なサラウンド効果が得られない

原因	対策	参照ページ
本機とDVDプレーヤー／レコーダーやテレビをデジタル接続している場合に、DVDプレーヤー／レコーダーやテレビのデジタル出力設定が有効になっていない。	DVDプレーヤー／レコーダーやテレビ側の設定を確認してください。	—
リスニングルームが特殊な形状をしている、または本機の設置場所や視聴位置がリスニングルームの左右の壁の中央からずれている。	本機の設置場所や視聴位置を変更してください。	16
ビーム経路上に壁がない。	ビーム経路上に反射板を設置してください。	—

ドルビーデジタルまたはDTSソフトの再生ができない（本機のディスプレイのドルビーデジタルまたはDTSインジケーターが点灯しない）

原因	対策	参照ページ
接続したプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」かつ「ドルビーデジタルまたはDTS」に設定されていない。	お使いのプレーヤーの取扱説明書を参照し、正しく設定してください。	—
入力モードを「ANALOG」に設定している。	「AUTO」に設定してください。	76

サブウーファーを接続していないときに、本来の音以外の雑音が出る

原因	対策	参照ページ
強い低音成分が連続して含まれるソースを再生したため、保護回路が働き雑音が出た。	音量を下げてお楽しみください。	46
	詳細設定「サブウーファー設定」で「バス出力」を「サブウーファー」に変更してください。その際「クロスオーバー」を「120Hz」または「150Hz」に設定してください。低音成分が抑えられます。	67
	サブウーファーを接続し、詳細設定「サブウーファー設定」を行ってください。	67

サブウーファーから音声が出ない

原因	対策	参照ページ
詳細設定「サブウーファー設定」で「バス出力」を「フロント」に設定したまま、ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号を再生している。	「サブウーファー」に設定してください。	67
再生しているソースにLFEや低音信号が含まれていない。		—

低音の再生不良

原因	対策	参照ページ
詳細設定「サブウーファー設定」の「クロスオーバー」が正しく設定されていない。	「クロスオーバー」を正しく設定してください。	67
ナイトリスニングモードが選択されている。	ナイトリスニングモードをオフにしてください。	56

テレビ画面にメニューが表示されない

原因	対策	参照ページ
ビデオ用ピンケーブルがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	22、24、26
HDMIケーブルのみで接続している。	ビデオ用ピンケーブルを接続してください。	22
テレビの入力切替が正しく設定されていない。	テレビの入力を切り替えてください。	32

DVDなどの映像が出ない

原因	対策	参照ページ
HDMIケーブルがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	22
テレビの入力切替が正しく設定されていない。	テレビの入力を切り替えてください。	—

本機が正常に作動しない

原因	対策	参照ページ
内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—

マイビームの自動角度調節で測定に失敗し、角度が設定されない

原因	対策	参照ページ
周囲の騒音が大きい。	手動で調節してください。	55
動作保証範囲外で測定している。	動作保証範囲内に移動するか、手動で調節してください。	55
接続機器の状態により、測定できない。	ビームモードキーで再度「マイビーム」を選択してから、もう一度測定してください。	54

デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている

原因	対策	参照ページ
本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機からそれらの機器を離してください。	—

リモコン

リモコンで操作できない

原因	対策	参照ページ
リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光部から6m以内、角度30°以内の範囲で操作してください。	30
受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	29

外部機器をリモコンで操作できない

原因	対策	参照ページ
TV/AV/YSPスイッチがYSP側に設定されている。	TV/AV/YSPスイッチをTV/AV側にスライドさせてください。	83～85
操作する機器が選ばれていない。	リモコンの入力選択キーを押して、操作したい機器を選んでください。	83～85
リモコンコードが正しく設定されていない。	リモコンコードを設定し直すか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。	81
リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	各機器に付属しているリモコンをご使用ください。	—

メニューの操作中にカーソルキーの操作ができない

原因	対策	参照ページ
TV/AV/YSPスイッチがTV/AV側にスライドしてしまった。	TV/AV/YSPスイッチをもう一度YSP側にスライドさせてください。	61

技術／用語解説

5.1チャンネル

もともと映画館で臨場感のある音響効果を再現するために開発されたサラウンド・システムです。前方に3ch(左、右のステレオ2ch＋セリフ用センター1ch)、後方に2ch(サラウンド効果)、さらに超低音を出すためのLFE(ロー・フリクエンシー・エフェクト)と呼ばれるチャンネルが用意されています。LFEは低音域専用で帯域が狭く、独立した音源には成り得ないことから「0.1ch」とカウントされています。

AAC(アドバンスト・オーディオ・コーディング)

デジタル圧縮音声フォーマットの1つです。主に日本のBS/地上デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録・伝送できます。圧縮動画規格であるMPEG-2の中で策定されています。

DTS

DTS社が開発したデジタル・サラウンド・フォーマット(音声圧縮技術)で、DVDなどに使用されています。ドルビーデジタルよりも低い圧縮率を採用しており、クリアで厚みのある音質で5.1chサウンドが再生できるといわれています。

DTS Neo：6

DTS社が開発した、2chソースを6ch化してサラウンド再生する技術です。再生するソースに合わせて、映画用のNeo：6 Cinemaモードと音楽用のNeo：6 Musicモードが用意されています。

EUPHONY

美しい音の響きを楽しむという基本コンセプトのもと、最新の音響技術ファミリーを駆使して実現した画期的な音場再生方式です。自然で臨場感溢れる立体音がリスナーをすてきな音の世界に誘います。
Euphonyでは入力チャンネル数、再生スピーカー数(2～複数スピーカー)や口径などに依存することなく、その特性に最適なサラウンド再生が可能です。また、しっかりしたセンター定位も大きな特長となっております。

HDMI

世界業界標準規格であるHDMI(High-Definition Multimedia Interface Specification)規格に準じた、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースです。著作権保護技術(HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System)に対応しているため、デジタルビデオ／オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1本のケーブルで伝送できます。

LFE(ロー・フリクエンシー・エフェクト)

ドルビーデジタル、DTSなどのデジタル・サラウンド・システムでは、通常の5ch(フル帯域)以外に、低域の効果音のみを出力するLFEチャンネルが用意されています。20Hz～120Hzの帯域の重低音を補助的に加えることで、迫力やリアル感が加わります。LFEは低音域専用で帯域が狭く、独立した音源には成り得ないことから「0.1ch」とカウントされています。

MPEG

ISO(工業の標準化を図る国際機関)とIEC(電気・通信などの標準化を図る国際機関)が共同で標準化した「動画」および「音声」にかかわるデジタル圧縮規格の名称です。
MPEGには、MPEG1、MPEG2、MPEG4の3つの規格があります。MPEG1の画質はVHSビデオ並みで、ビデオCDなどで利用されています。
MPEG2の画質はS-VHSビデオ並みで、DVDビデオなどで利用されています。

PCM(パルス・コード・モジュレーション)

アナログ信号をデジタル信号に変換する代表的な方式です。PCMは非常に短く区切った単位時間あたりの信号レベルを符号化(コード化)します。MP3形式やATRAC形式のような圧縮処理を用いないことから、リニアPCMとも呼ばれています。CDやDVDオーディオの録音方式などに採用されています。

SRS TruBass

SRS社が開発した、低音を増強再生する技術です。原音に含まれる異なる周波数の信号を利用して差成分を作り出し、その差成分で脳に低音を感じさせるようにしています。

ドルビーデジタル

ドルビーラボラトリーズ社が開発したデジタル・サラウンド・フォーマット(音声圧縮技術)で、DVDの標準音声形式のひとつとなっています。フォーマットとしては1chから5.1chまで用意されていますが、一般的には前方3ch、後方2ch、LFE(低域効果音)0.1chの5.1chでサラウンドを構成します。各チャンネルが独立した信号で録音されているため、非常に明瞭な音声で再生することができます。

ドルビープロロジック

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、ステレオ信号をサラウンド再生するためのアナログ技術です。ドルビーサラウンドエンコードされている2chソースを、前方3chと後方1ch(モノラル)の4chでサラウンド再生します。

ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックの上位規格で、ステレオ信号を5.1chで再生するための技術です。後方のサラウンドchはステレオ化されているのと同時に、周波数特性がフル帯域化されています。再生するソースに合わせて、映画用のMovieモードと音楽用のMusicモード、ゲーム用のGameモードの3つが用意されています。

主な仕様

アンプ部

実用最大出力（JEITA）

.........2W（1kHz、10%THD、4Ω）×16個

＋15W（100Hz、10%THD、4Ω）×2個

スピーカー部

小口径スピーカー

.... 2.8cmコーン防磁型×16個

ウーファー............. 8cmコーン防磁型×2個

入力端子

オーディオ　ビデオ、テレビ/チューナー（アナログ）（1V/32kΩ）

.... 2組（アナログ音声）

オーディオ　テレビ/チューナー、DVD（光デジタル）.................. 2個（デジタル音声）

オーディオ　AUX（同軸デジタル）

.... 1個（デジタル音声）

HDMI　AUX、DVD

..............................2個（デジタル音声・映像）

出力端子

サブウーファー（1.5V/120Hz以下）..... 1個

ビデオ（1Vp-p/75Ω）.......................... 1個

HDMI 1個

マイク入力端子

INTELLIBEAM MIC.......... 1個（マイク入力）

システム接続端子

システム接続.... 1個（システムコントロール）

総合

電源電圧........................ AC100V、50/60Hz

消費電力... 25W

待機時消費電力.................................0.1W以下

寸法（幅×高さ×奥行き）

....................................610×120×220mm

質量 8.5kg

＊ 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

索引

記号

2チャンネルソース 51
3ビーム 48
5ビーム 47

A

AAC 50
DTS 50
DTS Neo:6 50
DUAL 50
HDMI 20
HDMIケーブル 20
HDMIコントロール機能 59
HDMI設定 70
HDMI端子 22
Lch/Rch位置調整 66
PCM 50
ST+3ビーム 48
TruBass 69

ア行

インテリビーム 34
インテリビームマイク 34
エラーメッセージ 39
音質調整 36
音量 46
音量モード 56

カ行

拡張メニュー 78
簡易マイクスタンド 35

サ行

サウンド設定 67
サブウーファー 67
サラウンド確認用DVD 45
サラウンド再生 47
サラウンドモード 52
自動設定 34
詳細設定メニュー 60
初期化 80
ステレオ再生 53
ステレオピンケーブル 20
スリープタイマー 57
設置視聴環境 63
前面（フロントパネル） 13

タ行

ダイナミックレンジ 69
タイミング 68
デコーダー 50
デコードモード 70
デジタル音声多重 58
デジタル音声ピンケーブル 20
テスト音 74
デモモード 79
テレビ音量一定モード 56

テレビマクロ 86
電源 31
電源コード 28
電池 29
トーンコントロール 67
ドルビーデジタル 50
ドルビープロロジック 50
ドルビープロロジックII 50

ナ行

ナイトリスニングモード 56
入力設定 70
入力選択キー 43
入力モード 76
入力レベル調整 70

ハ行

背面(リアパネル) 15
バランス 74
ビーム角度 55
ビーム設定 63
ビーム調整 .... 36、 64
ビームモード 47
光ファイバーケーブル 20
ビデオ用ピンケーブル 20
表示設定 73
フロントパネル 13
フロントパネルディスプレイ 14

マ行

マイサラウンド 49
マイビーム 54
マルチチャンネル 50
メニュー 32
メニュー画面設定 73
メモリー 40

ラ行

リアパネル 15
リスニングルーム 16
リモコン 1
リモコンコード 88
リモコン受光窓 13

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル(全国共通) 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受 付 日:月〜土曜日(祝日およびセンターの休業日を除く)
受付時間:10:00〜12:00、13:00〜18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル(全国共通) 0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

FAX (053) 463-1127

受 付 日:月〜土曜日(祝日およびセンターの休業日を除く)
受付時間:月〜金曜日 9:00〜19:00 土曜日 9:00〜17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日:月〜金曜日(祝日および弊社の休業日を除く)
受付時間:9:00〜17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市東区和田町200
ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を!

愛情点検

こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650 浜松市中区中沢町10-1

YAMAHA

YSP-600

簡易接続・操作ガイド

＜接続・操作で使う付属品＞

- □ステレオピンケーブル(1本)
- □ビデオ用ピンケーブル(1本)
- □光ファイバーケーブル(2本)
- □インテリビームマイク(1個)
- □簡易マイクスタンド(1セット)
- □サラウンド確認用DVD(1枚)

テレビとDVDプレーヤー／レコーダーを接続してYSP-600のサラウンドサウンドを楽しむまでの手順を説明します。詳しい内容については取扱説明書をご覧ください。

1　YSP-600 を設置する

YSP-600 の設置場所を決定します。

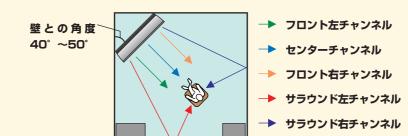
本機は下図のように音声をビーム化して出力します(矢印はビーム化した音声と各ビームの経路を表しています)。効果的なサラウンド感を得るため、ビームの経路と家具などの障害物が重ならない場所に本機を設置してください。

本機を壁と並行に、リスニングルームの中央に設置した場合のイメージ図です。

本機をリスニングルームのコーナーに設置した場合のイメージ図です。

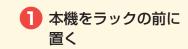
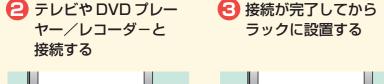
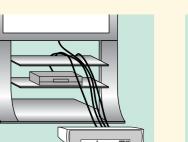
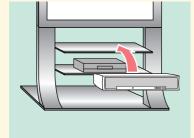
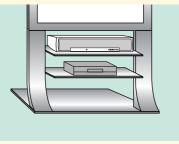
家具などの障害物

壁との角度 40°～50°

- フロント左チャンネル
- センターチャンネル
- フロント右チャンネル
- サラウンド左チャンネル
- サラウンド右チャンネル

YSP-600 をラックなどに設置します。

一度仮り置きをして設置状況をご確認のうえ、設置と接続をどちらから行うか決定してください。
設置の詳細については取扱説明書16ページをご覧ください。

下図は本機を接続してからラックへ設置する場合の一例です。本機や床、ラックなどにキズがつかないようご注意ください。

1. 本機をラックの前に置く
2. テレビや DVD プレーヤー／レコーダーと接続する
3. 接続が完了してからラックに設置する
4. 完成

右記「2 YSP-600にテレビとDVDプレーヤー／レコーダーを接続する」を参照してください。

ヒント
本機を床から離して設置すると、より効果的なサラウンド感を得られます。

Printed in Malaysia　WN77820 [Ja]

2　YSP-600にテレビとDVDプレーヤー／レコーダーを接続する

YSP-600 で音声を楽しむときは、TV の音量は最小にしてください。

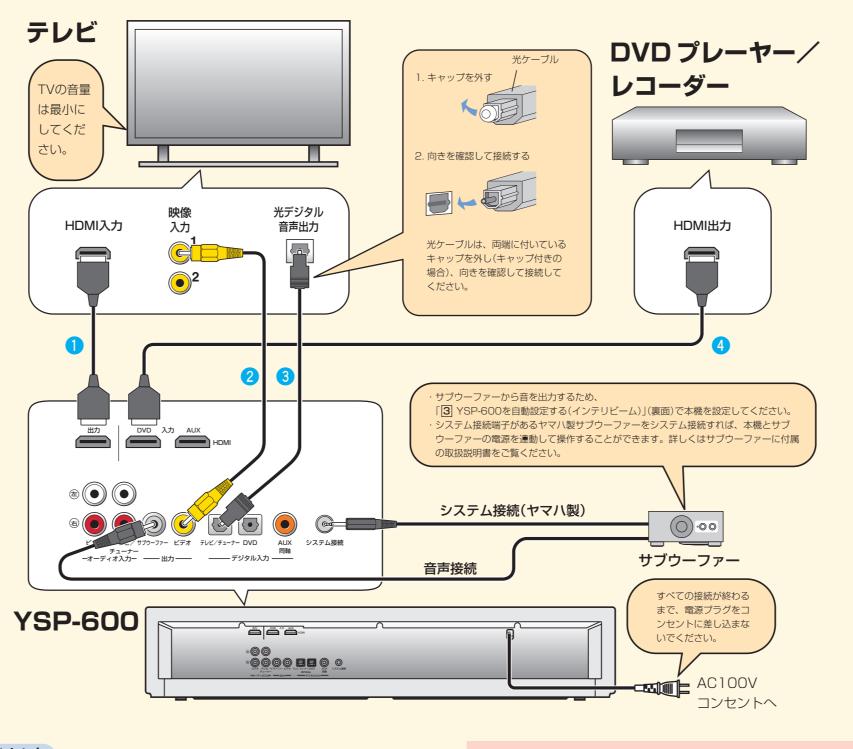
テレビと DVD プレーヤー／レコーダーを YSP-600 に接続します。

下記の接続例を参考にしてテレビとDVDプレーヤー／レコーダーを本機に接続してください。電源プラグは最後に接続します。接続の詳細や他の再生機器、サブウーファーとの接続については取扱説明書22～27ページをご覧ください。

接続例 HDMI ケーブルを使う場合

本機の性能を最大限に発揮できる接続方法です。DVDプレーヤー／レコーダーから出力される映像・音声信号を別売のHDMIケーブルを使って伝送することにより、DVDをより高品質な映像や音声でお楽しみいただけます。また、テレビからの音声信号を光ファイバーケーブルで本機に入力することにより、テレビのマルチチャンネルデジタル音声をお楽しみいただけます。
詳しくは取扱説明書「HDMI端子を使って接続する」をご覧ください(22ページ)。

接続ケーブルは以下の順番で接続してください。

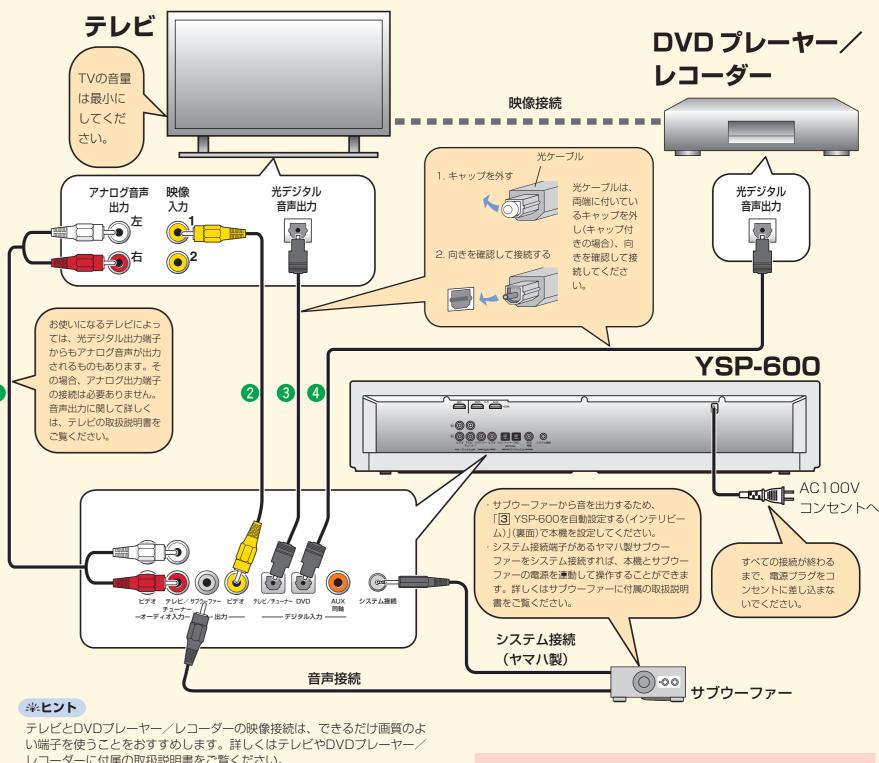
1. HDMIケーブル(別売)（DVDのデジタル映像をテレビに映します）
2. ビデオ用ピンケーブル(付属)（本機のメニュー画面をテレビに映します）
3. 光ファイバーケーブル(付属)（テレビのデジタル音声を本機で再生します）
4. HDMIケーブル(別売)（DVDのデジタル映像／音声を本機に入力します）

ヒント
HDMIを使ったコントロール機能に対応しているテレビ(一部を除く)と本機をHDMI接続すれば、テレビのリモコンで本機の電源などを操作することができます。詳しくは取扱説明書59ページをご覧ください。

DVD やテレビを接続したら、本機を自動設定します。裏面へお進みください。

接続例 付属のケーブルを使う場合

本機に付属のケーブルを使って、本機とDVDプレーヤー／レコーダー、および本機とテレビを接続する方法を表しています。DVDのマルチチャンネルデジタル音声およびテレビのマルチチャンネルデジタル／アナログ音声をお楽しみいただけます。
テレビとDVDプレーヤー／レコーダーの映像接続は、DVDプレーヤー／レコーダーに付属の映像ケーブルなどで接続してください。

接続ケーブルは以下の順番で接続してください。

1. ステレオピンケーブル(付属)（テレビのアナログ音声を本機で再生します）
2. ビデオ用ピンケーブル(付属)（本機のメニュー画面をテレビに映します）
3. 光ファイバーケーブル(付属)（テレビのデジタル音声を本機で再生します）
4. 光ファイバーケーブル(付属)（DVDのデジタル音声を本機で再生します）

ヒント
テレビとDVDプレーヤー／レコーダーの映像接続は、できるだけ画質のよい端子を使うことをおすすめします。詳しくはテレビやDVDプレーヤー／レコーダーに付属の取扱説明書をご覧ください。

ご注意
テレビやDVDプレーヤー／レコーダーのデジタル音声出力設定がオンになっていることをご確認ください。

DVD やテレビを接続したら、本機を自動設定します。裏面へお進みください。

表面からのつづき

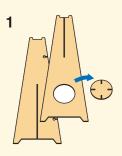
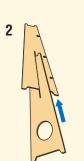
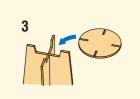
3 YSP-600を自動設定する（インテリビーム）

YSP-600を自動設定し、最適な視聴空間をつくります。

付属のインテリビームマイクを使用してリスニングルームの環境を測定し、各チャンネルの設定を自動的に調節します。
測定中は大きなテスト音が出力されます。小さなお子様がお部屋にいる場合やお部屋に入ってくる可能性がある場合は、自動設定機能を使用しないでください。

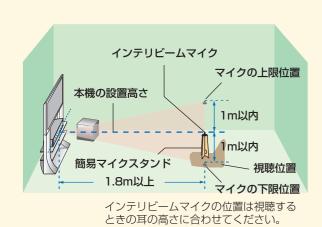
❶ 簡易マイクスタンドを組み立てる

下図4のようにインテリビームマイクを簡易マイクスタンドの上に置いて使用します。

1
2
3
4

❷ インテリビームマイクを本機のINTELLIBEAM MIC端子に接続する

❸ インテリビームマイクを実際に視聴する位置に設置する

簡易マイクスタンドを利用して、できるだけ視聴時の耳の高さとなる位置に設置してください。

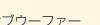
インテリビームマイクの位置は視聴するときの耳の高さに合わせてください。

インテリビームマイクは本機から1.8m以上離し、本機の中心線上に設置してください。また、本機から上下1m以内の高さに設置してください。ソファーの背もたれなど、マイクと壁の間に障害物がある場合には、障害物を移動したり、マイクをより高い場所に設置してください。壁に接している家具は壁と見なしますので障害物ではありません。

❹ リモコンの電源キーを押す

本機の電源がオンになります。
操作の前に、リモコンに電池を入れてください（取扱説明書29ページ）。
必要に応じて、本機の音量を調節してください（取扱説明書46ページ）。

サブウーファーを接続している場合

サブウーファーの電源を**オン**にし、取扱説明書35ページの「ヒント」を参考に音量やクロスオーバー／ハイカット周波数を設定してください。

サブウーファー

❺ テレビの電源を入れる

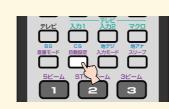
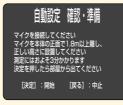
❻ テレビの映像入力切替を操作して、YSP-600の映像に切り替える

「YSP-600」と書かれた画面が表示されます。
表面の接続例のように、「ビデオ用ピンケーブル」をテレビの映像入力1に接続した場合は、テレビの映像入力を「1」に切り替えます。

❼ TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

リモコンがYSP操作モードに切り替わります。

❽ 自動設定キーを2秒以上押す

テレビに下の画面が表示されます。画面が表示されない場合は、表面接続例の「ビデオ用ピンケーブル」が正しく接続されているか確認してください。

❾ 以下のことを確認する

インテリビームマイクについて

- 本機の正面に設置されていますか？
- 本機から上下1m以内の高さに設置されていますか？
- 本機から1.8m以上離れた場所に設置されていますか？

お部屋の環境について

- できるだけ静かに保たれていますか？

❿ お部屋の外に出る準備をする

お部屋の中にいると、最適な設定が行われない場合があります。手順11で決定キーを押してから10秒以内にお部屋の外に出られるように準備をしてください。

ヒント

- お部屋の外に出るときは、本簡易接続・操作ガイドも一緒にお持ちください。
- 測定中はお部屋の外でお待ちください。
- 測定開始から完了まで約3分かかります。
- 測定中に自動設定を中止したい場合は、リモコンの戻るキーを押してください。

⓫ 決定キーを押して測定を開始し、10秒以内にお部屋の外に出る

テレビに下のような画面が表示されます。10秒以内にお部屋の外に出てください。

測定中の項目に従って、画面が自動的に切り替わります。

測定が終了すると終了音（チャイム音）が出力され、下のような画面が表示されます。

「環境チェック・・・[NG]」と表示された場合は、取扱説明書38ページを参照し、再度設定してください。

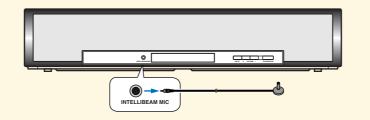
ヒント

- 本機の設置位置やサブウーファーの有無などにより、結果表示画面は異なります。
- エラー音（ブザー音）が出力され、画面にエラーメッセージが表示された場合は、「エラーメッセージとエラー後の操作について」（取扱説明書39ページ）を参照して問題を解決してください。その後、戻るキーを押して再度設定してください。

⓬ 決定キーを押す

下の画面が表示され、2秒後にメニューが消えます。

⓭ インテリビームマイクを外す

自動設定完了です。マイクは大切に保管してください。
測定結果は本機に記憶され、電源を切っても初期設定値には戻りません。

4 音声をサラウンドで楽しむ

DVDやテレビのデジタル音声をサラウンドで楽しみます。

DVDプレーヤー／レコーダーおよびテレビの機能や設定、操作については、ご使用のDVDプレーヤー／レコーダーやテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。

DVDを再生する

❶ テレビの映像入力切替を操作して、DVDの映像に切り替える

❷ TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

リモコンがYSPモードに切り替わります。

❸ 1）DVDキーを押す

DVDを入力選択します。

2）DVDプレーヤー／レコーダーで、付属のサラウンド確認用DVDを再生する

テレビを視聴する

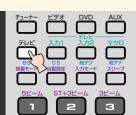
❶ テレビに付属のリモコンで、見たいデジタル放送番組を選ぶ

テレビの音量を最小にします。

❷ TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

リモコンがYSPモードに切り替わります。

❸ テレビキーを押す

テレビを入力選択します。

❹ 本機からデジタル音声が出ていることを確認する

フロントパネルディスプレイに、**MULTI**インジケーターや**AAC**インジケーター（テレビ視聴時）が点灯します（取扱説明書50ページ）。
テレビのスピーカーから音声が出ている場合は、テレビを消音してください。
デジタル音声信号の入力について詳しくは、「デジタル信号の入力を確認する」（取扱説明書45ページ）をご覧ください。

インジケーター表示

MULTI　AAC

❺ 音量＋／－キーを押して、音量を調節する

❻ ビームモードキーを押して、ビームモードを変更する

ビームモードを変更することにより、2チャンネルステレオ再生から5.1チャンネルのマルチチャンネル再生まで、6種類の再生モードをお楽しみいただけます。お好みのビームモードをお選びください。
ビームモードについては取扱説明書47～49、53～55ページをご覧ください。

YSP-600のサラウンドサウンドはお楽しみいただけましたか？　リスニング環境をより詳細に設定したい場合は「本機を詳細に設定する」（取扱説明書60ページ～）をご覧ください。